1454

155
192

祈禱之學課 完

アンドリュー、モルレー著
岡本敏行譯

明治二十四年四月刊行
米國聖教書類會社

特18
137

初學課

完

アンドリュー、モルレー著
岡本敏行譯

明治二十四年四月刊行

祈禱の學課

目錄

第一課　唯一の教師
第二課　眞正の禮拜者
第三課　密室の祈禱
第四課　摸範の祈禱
第五課　應答の確實
第六課　神の無限慈愛
第七課　諸物を含める賜
第八課　神の友の大膽
第九課　工人の供給
第十課　目的の必要

第十一課　受るところの信仰
第十二課　神の友の大膽
第十三課　不信仰の治療
第十四課　祈禱と愛
第十五課　共同祈禱の力
第十六課　耐忍ある祈禱の力
第十七課　神の存在に合ふ祈禱
第十八課　人の運命に合ふ祈禱
第十九課　祈禱と働作
第二十課　終極の目的
第廿一課　最必要なる情實
第廿二課　神の言と祈禱

第廿三課　從順は能力を受る道なり
第廿四課　主の名と祈禱
第廿五課　聖靈と祈禱
第廿六課　懇求者なる基督
第廿七課　祭司の長基督
第廿八課　犧牲なる基督
第廿九課　祈禱に於ける我儕の勇氣
第三十課　懇求の役
第卅一課　祈禱の生涯

祈禱の學課

第一課　唯一の教師

イエス某所にて祈禱しけるに畢しとき一人の弟子いひけるは主よ我儕にも祈ることを教へたまへと偖に在て其祈るを見キリストか世に在して渉り給ひし奇き生涯と退き過せし秘密なる祈禱の生涯との關係を稍曉るに至れり、彼等は祈禱の術に達するを信じ即ち彼等來りて「主よ我儕にも祈ることを教へたまへ」と其願ひ若し後日彼等をして我儕に告げしめばキリストの如く誰も祈る能はざるを

路十一〇一、

第一課　唯一の教師

キリストの教たる祈禱の學課より勝りて奇き幸ある教訓は甚

だ少しと言なるべし

今日と雖もイエスか或所にて祈たる時の如く其祈禱に勉め給ひしを見て弟子等は「主よ我儕にも祈ることを敎へたまへ」との同願をなすなり、我儕キリストの敎徒たる生涯を送るに從ひ禱告をなせるキリストの思想と信仰は益〻貴く我儕も懇求をなせるキリストの如くあらまほしとの望自から心の中に發するに至る、我儕キリストの祈るを見キリストの如く祈り彼の如く敎るものなきを思ひて昔時弟子等の求たる如く「主よ我儕にも祈ることを敎へたまへ」と願ふの必要を感じ又我儕キリストの如何なるか如何にして我儕のものなるか且つ我儕の生命なるかを考ふるとき自から彼に問ふの外なすなきを覺る、キリストも我儕と近く

交るを喜ひ自己が祈れる如く祈ることを敎ゆべし

來れ、我兄弟等よ我儕の斯幸ひなる主の許に至りて奇き祈禱の術を學ばんと志す者を招きて敎ゆる學の舍にいかで入ざらんや、今日我儕も往時の弟子等の如く「主よ我儕にも祈ることを敎へたまへ」と曰ん我儕思を竊て想ふるに從ひ斯祈願の一字毎に深き意味の充るを見るべし

「主よ祈ること〇〇〇〇を敎へたまへ」、我儕の敎へられんことは祈ることなり、祈禱を學ぶの初にありては祈禱は最も單一にして弱き兒童も能くなし得る程なれども又これ人の爲得らるゝ業の中最貴き最潔き事にぞある、祈禱は見えざる最聖者と交ることにして、これ宗敎の本質諸の幸福の來る道能力と生命を得るの秘訣なり、神が我儕のみならず他人にも

教會にも、世にも自己の力を受しむるの權を與へ給ひしは祈禱にして、約束の完應王國の來臨神の榮光の顯現等は祈禱に於てのみ見ることを得、我等はかゝる幸なる業を勉めず常に己に適ずとなす、我等をして誤なく祈ることを得せしむるものは神の靈にして此能力なき時は我等は欺れて唯形容に止まるのみ、我儕の幼少ときの教育教會の教訓へ習慣の感化感情の激動などは容易く靈の力なき祈禱を爲しむると雖も其祈禱には答あることと甚た稀なり、されば誰か神の能力を得答を受天の御門の開かるゝ眞正の祈禱を我に教へよと叫ばさらんや

イエスは今己か購ひたる者にして祈禱に力を受んと願ふ者を教へんが爲學の舍を開きたまへり、さらば我儕は「主よ

我儕に祈ることを教へ給へ此は我儕の望むところなり」との願をもて其中に入ざらんやたまへ」我儕は爾キリストの言「主よ我儕に祈ることを教へたまへ」我儕は爾キリストの言葉に於て昔の信徒の祈禱は實に能力ありて彼等の祈禱盡く答へられ奇き業を顯せるを讀たり、祈禱の力は此の如く舊約の準備の時にさへ顯れたればいかでか新約の此成就の時に當りて爾は爾の民に降り其中に在て確く爾の在すを顯し給はざらんや、我儕は昔時の使徒等に祈禱の力を與へし爾の約束と此約束の眞實なるを經驗したるを見る、我儕も亦確に其約束の眞實なるを知る、今も尚絶ず爾か信仰熱き者に與ふる力著しく顯るゝなり、主よ凡て此等の人々は我儕と同情の者なり、我儕にも祈ることを教へたまへ、か

の約束は我儕の爲又其能力と賜物も我儕の爲なりあゝ主よ我儕の著しく恩惠を受るやう祈ることを敎へ給へ、爾は其業を我儕に任せ其王國の來臨と榮光の顯現を我儕の祈禱に因らしめたり、「主よ我儕に祈ることを敎へたまへ」は爾の弟子となる我儕は爾に敎へられんことを欲む「主よ祈ることを敎へたまへ」

「主よ我儕に祈ることを敎へたまへ。」

へらるゝの必要を感ず、祈ることは初に甚た易きが如く後には甚た難きものなり、我儕は懺悔して曰さるべからす我儕は如何にして祈るべきかを知ずと、我儕の見る所の神の言葉は明白にして其約束は確實なりと雖も罪惡來りて我儕の心を暗くし如何にして神の言葉を用ゆべきかを知さ

らしむ、我儕は靈の事に於て尤も必要なるものを求めず、又聖き室の法則に合ひて祈る能はず、世の事に於ても我儕の父の求めよと曰給ひし豐なる自由を捨て必要なるものを求むる少し、縱令我儕求ることを知とも其求る所大に神の旨に適はしめざるべからす、祈禱は神の榮光の爲神の御旨に從ひ堅き信仰を以てイエスの名に託て爲さるべからず、又忍耐なかるべからす、凡て此等は學ふべきものにして唯多く祈るによりて學ばるゝなり、蓋習練は完全にすればなり、實効ある祈禱の天術はおのか無學と能力なきをいたく知り信仰と疑惑の爭の中にて學ばる、これ我儕のなほ覺ざるときも信仰と祈禱の先導又此等を完全する者在せばなり、彼は我儕の祈禱に氣を配り深く敎訓を受んとて來りて

己に托す者を守り給ふ、我儕はキリストを完全なる師と仰ぎ我儕の無學なるを悟りて教訓を乞ふべし、されば我儕必ず教訓を受、祈禱に力を得ん、實に我儕之に頼を得べし、彼は祈ることを教へ給ふ

「主よ。祈ることを我儕に教へたまへ」誰もイエスの如く教へ得るものなし、イエスの外誰もなし、故に我儕彼に「主よ祈ることを我儕に教へたまへ」と呼ぶ、弟子は必ず教ることを知り能く其求に從ひて忍耐と愛をもて弟子を教るところの師を要す、神は讃べき哉、イエスは之に適しく之よりも勝れり、彼は祈禱の何たるを知り祈禱を教る彼は常に祈ることろのイエスにして彼は此世に於て試感と涙の中に祈禱を學べり、今も尚天に在て祈り其送り給ふ所の生涯は祈禱の

生涯にして彼には父の御前にて共に祈る所の者を得るは最上のたのしみなり、彼は自己と偕に祈る所の者に神の幸福を世人に與ふる力を分配ち王國の地上に來らん爲懇求をなす所のものとならしめ給ふ、彼は能く如何に教ゆべきかを知る、或は非常に欲乏を感ぜしめ或は喜より發する信任を以て或は言葉の教訓により或は正しき祈禱をなす道を知る信者の證據によりて教へ聖靈によりて我儕の心に近づき祈禱を妨る罪を示し神を喜はす確信を與ふ、彼は唯に我儕に如何にして祈るべきか何を求べきかとの思想を與ふるのみならず大なる懇求者となりて我儕の中に宿り祈禱の靈を我儕に吹込て教へたまふ、我儕は誠に最喜ばしく「誰かイエスの如く教るものあらんや」と叫ぶべし、彼は

其弟子等に如何に説教すべきかを教へずして、唯祈禱の道を教へ、説教を能くすべきを多く語らすして、能く祈るべきを説き給へり、神に語るの道を知るよりも難く神に對ひて力あらんを求るは最初にして人に對ひては後なり、誠にイエスは祈禱の道を教るを好めり

我愛する弟子等よ我儕祈禱の術に關れる殊別の教訓を受んとて一ケ月間主に求るは我儕の今要する所には非ざるか、我儕主の此世に在て語り給ひたる御言を默想する時此、る師に依てこそ我儕進歩すべしと堅く信じて其教訓を受唯に默想するのみならず主の御前に伏して祈り禱告の業を練るに時を費し我儕の恐怖と祈らざる中にも主は其業を美しく成たまふを信じて此なすべし、彼は我儕に祈禱に

充る自己生命を吹込み其義と生命に與らしめて、其懇求にも入たまふ、我儕は彼の肢躰聖き祭司となりて人の爲に神に求る彼の祭司の業に與るべし、實に我儕無學にして弱とも「主よ我儕に祈ることを教へ給へ」と最喜ばしく呼はるべし

主よ我儕にも祈ることを教へたまへ

常に祈らんと生る所の榮光の主よ、爾は我を教へて常に祈らしめ給ふ、我絶ず祈り我神の御前にて祭司の如く立得る爲に爾は天にある爾の榮光を我に與へんことを好み給ふ、

主イエスよ、今日我名を祈禱の教訓を學ぶ者の中にあらしめよ、主よ、爾と學の舍に寓まりて爾に習ふことを得せしめ祈禱の奇き權威を知ざ

る恩なる情況を深く顧み祈禱の靈を得んことを求め、謙りて虛しき心を以て爾の前に跪かしめよ

又爾の如き師によりて祈禱を學ぶとの信仰を與へよ、常に父に祈るところのイエスを我教師となしたり、其祈禱は教會と世の運命を支配すとの確念によりて我恐ざるべし、爾は祈禱界の奧義を我が語るべき丈我に示し給ふべし、又我が知さる時に神に榮光を歸し信仰に由て强からんことを我に敎へたまはん

讃べき哉主よ、爾は爾に賴る所の學生を恥しめたまはず、又爾の恩惠によりて彼も爾を恥しめざらん、アーメン

第二課　眞正の禮拜者

眞の拜するもの靈と眞を以て父を拜する時きたらん今その時になれり夫父は是の如く拜する者を要め給ふ、神は靈なれば拜する者もまた靈と眞をもて之を拜すべき也　約四〇廿三、廿四

イエスのサマリヤの婦人に語り給ひし此等の言語は祈禱に關はりて記されたる敎訓の初にして此言語は祈禱界に或る驚くべき光明を與ふるなり、父は拜するものを要めたまふ、我儕の禮拜は其愛心を飽しめ其喜ぶところとなる、彼は眞の拜するものを求めたまふといへども其要求に適ふもの多からず、眞の拜する者は靈と眞を以てなすものにして子は此靈と眞を以て拜する道を開きて我儕に敎ゆれば靈と眞を以て祈るとは如何なるや如何にして其を爲し得べきやは我儕の學ぶべき最初の課程なるなり

我儕の主はサマリヤの婦人に三樣の禮拜を語れり、第一にサマリヤ人の無知なる禮拜「爾曹の拜する者を爾曹は知らず」、第二に神を知れるユダヤ人の智慧禮拜「我儕の拜するものを我儕は知る」、第三に主の初めて傳へたまひし新なる靈の禮拜「今其時になれり、夫父は是の如く拜するものを要め給ふ、眞の拜する者靈と眞を以て父を拜する時來れり」、是なり、我儕言語の關係を明了に見れば靈と眞とは熱心或は心より或は眞實等の意には非ず、既にサマリヤ人はモーセの五卷を有たれば神を全く知らざるにはあらず、彼等の中熱心に祈るもの一人もなかりしとは考ふべからず、又ユダヤ人は神の默示を悟れるなれば彼等のうち全心を以て神に求めし信仰熱き人ありたるは勿論なり、然れども彼等の中

靈と眞を以て事ふるものなかりしなり、イエス曰く「時きたらん今其時になれり」靈と眞を以て拜するはイエスに依らずして爲を得ず、凡そギリスト信徒は皆此三種の禮拜者の中何れかに居るものにして世には其求むるものを微に知りて祈るものあり、彼等は熱心なりといへども受るところ少し、又祈るものを知り心を盡して屢祈れども靈と眞を以てせるが如き幸福を得ざるものあり、我儕は第三種の禮拜者たらんとをイエスに求めざるべからず、靈と眞を以て拜するは如何なるやを敎られざるべからず、唯イエスより學びたる拜のみ靈にして、父の求めたまふところなり、すべて祈禱は靈と眞を以て拜することを曉り之を行ふに依るものなり

「神は靈なれば之を拜するものも靈と眞理を以て拜すべきあり」先づ主の茲に顯はしたまふ敎課は神と之を拜する者との間に一致なくんばあらずとのことなり、即ち神は靈なれば拜するものも靈を以てせざるべからず、是宇宙間に行はるゝ原則にして我儕物と機關とは互に相應ずるを見る、目は光線に適ひ耳は音響に應ずされば眞に神を拜せんと欲する者は神に適ひ神を受るに足ものならざるべからず、蓋は神は靈なれば我儕も靈を以て拜せざるべからず神を拜するものは神の如くになくんばあらず

抑此は如何なる意なるか、彼の婦人は眞の禮拜處はサマリヤなるか將たエルサレムなるかを問へり、其に答へてイエス曰けるは「婦人よ我を信ぜよ唯に此山のみに非ず亦エルサレムのみにもあらずして爾曹父を拜する時來らん」と彼は之によりて禮拜は決して一の場所のみに限らざるを敎へたり、眞に神は靈なれば場所と時間を以て限るべきにあらず、神は圓滿なれば靈を以て拜すべし、是最も大切なる敎訓なり、あゝ現時のキリスト敎が其禮拜の時間と場所を限りたるより受る害は幾許ぞや、世には會堂と密室に於て熱心に祈るところの人にして日毎の行爲の多くは祈禱の精神と相違するあり、かゝる人の禮拜は完全ものにあらずして一所一時のものなり、神は靈にして限りなく變らざるもの眞なる者なれば我儕の禮拜は靈と眞を以てせざるべからず我儕の生涯の精神は神を拜するとにして神は靈なれば我儕の禮拜は靈と眞を以てなさゞるべからず

「神は靈なれば拜するものも亦靈と眞理を以て之を拜すべきなり」次に我儕の思想に浮ぶものは靈を以てなすところの禮拜の神より出ざるべからずとの事なり、神は靈にして神のみ能く靈を與ふ、神の其子を此世に遣せしは聖靈によりて斯る「禮拜を我儕になさしめん爲にして、イエスが時來らん今其時になれり」と再度語りたまへるは自己の働きを指し彼は聖靈を以て「パプテズマ」を授けん爲來れり、然れども聖靈はイエスの榮光に擧らるゝまで來らざりき(約一〇卅三、七〇卅七卅八、十四〇七)イエスが我儕に父なる神の靈となりて降りしは罪惡を滅ぼし其血を以て至聖所に入りし時にして(徒二〇卅三)父、其子の靈を我儕の心に注ぎ「アバ」父、よと呼はしむるはキリストが我儕を贖ひまた我儕彼に

於て子たるの權を得たる時にあり、靈を以て拜するとはキリストの靈即ち子たるものゝ靈を以て拜するの謂にして是イエスが「父」との名を用ゆる所以なり、我儕舊約を見るに聖徒等自から子と唱へ又神を父と呼びしを見ず、父を拜するは子の靈を有者にあらざれば能はず、子父を現すに非ざれば靈を以て拜する難く又子たるの靈を受し者に非ざれば能はず、靈を以て拜する道を開きたるものは唯キリストのみなり

「眞理をもて」とは眞實にとの意には非ず、又唯神の言の眞理に適ふの意にもあらず、此言は最も深奥なる意を含めり「イエスは恩寵と眞理にて充る父の獨子なり」「律法はモーセにより恩寵と眞理はイエスキリストによりて來れり」「イエス

曰けるは我は眞理なり生命なり」舊約の時には凡の物皆影又は約束にして唯イエスのみ實物を携へ來り今やイエスにある限なき生命の幸福と能力は我儕のものとなれり、彼は恩寵と眞理に充ち聖靈により

イエスにある恩寵は我儕のものとなり、眞理に神の生命に與るを得されば靈を以て拜するは眞理にありて拜するとにして、是靈なる神と靈を以て祈るところの子との間の現實の交際通信一致なり

イエスがサマリヤの婦人に語れる時婦人は直ちに曉る能はざりき、其深き意の現はれん爲「ペンテコステ」の時來れり我儕祈禱の教課を學ぶの初に當りて此の如き學課は理會に苦むと雖暫時せば之を曉るに至るべければ唯主の與ふ

るまゝに教訓を學ぶべし、我儕の心は世に充て神の意に適ひて彼を拜する能はずといへどもイエスは我儕に來りて聖靈を與へたまへばイエスの教る如く祈るを以て足りとせん、又自から神を喜ばすに足る禮拜をなす能はず、幼兒の如き心なく聖靈の導きに從がふ單一なる信仰なしと神の前に告白し彼の幸福なる眞理を取らん、さらば我儕は主の尙言んとしたまふ言を曉り父を知り其限なき父たるの慈愛を覺え其子及び靈の我儕を子となし給ふ限なき愛を信ずるは靈と眞理を以て祈るの秘訣なるを見るべし、是キリストの我儕の爲に開き給へる新なる生る道にして子たるキリスト及び我儕の中に宿り父を顯はすところの子の靈を得ば眞正の禮拜者となるを得ん

主よ祈ることを我儕にも敎へ給へ

讃べき哉主よ、爾に一杯の水をさへ與ふるを拒みたる婦人に神の禮拜を敎へ給ひし爾の愛を讃む、爾は靈と眞理を以て拜せんと欲して爾の許に來るものを敎へたまふを信ず、あゝ我聖き主よ、此幸ひなる秘訣を敎へよ

靈と眞理を以て拜するは人よりには非ず、唯神より來るものにして時間々々のものには非ず、爾にある生命の流なるを我に敎へ又我無學と何も持ざるとを深く思ひ爾が靈を注ぎて我鈍き祈禱を助けたまふを感じて神に祈るに至らしめよ、我爾にありて子となり子たるの權を受け子の靈を有ち眞理を以て拜するを得るを感謝す、願くば神の限なき慈愛、祈禱と禮拜の生涯の我喜樂と能力たらしめ玉へ、アー

メン

第三課　密室の祈禱

爾祈る時は嚴なる室にいり戸を閉ぢて隱微たるに在す爾の父に祈れ然ば隱微たるに見たまふ爾の父は明顯に報たまふべし　太六〇六

イエス其弟子等を召きたる後山上にて公けの說敎をなし之に由りて神の國と其律法及び其生活を說明せり、神は其國に於て唯に王なるのみならず又父にて在まし我儕に萬物を與ふるのみならず自己をも與へ給ふ、神を知り之と交はるは特一の幸福なるが故に祈禱と祈の禱の生活を示すは神の建たまはんとする新らしき國に關れる敎訓の一部分なりと雖モーセは之に就て何の命令、法則をも與へず又預

言者等も祈禱の義務に就て語れるところ甚だ僅少にして祈禱を教ゆる者は唯キリストのみなり

主が弟子等に教ゆるところの第一は彼等が祈禱の爲密なる所を得るとなり、誰にても神と獨交るところの隱微なる室を得ざるべからず、如何なる教師にても其教場を有ものにして我儕已に祈禱の學校に於てイエスを我儕の唯一の師となし之を受け彼は既にサマリヤに於て禮拜を場所と時間に限るべきに非ざるを告げ心靈上眞正の禮拜は靈と生命のとにして人は一生涯靈と眞理をもつて拜すべき者なるを教へ尙また誰にても神と交り得る定まりたる所を撰ぶべきを說けり、室內の密なる所はイエスが祈禱を教ゆる教場にして其教場は何處にても可るべし、我儕は己が住

家を轉ずるに從がひ祈禱の室も異なるべしと雖兎に角密なる所にてイエスと偕に神に求むる靜隱なる時を撰び置かざるべからず、イエスは我獨り居る時來りて我に祈禱を教ふるなり

教師は常に其教場に天の光線と空氣充輝やきて人の心を引ばかりにあらんとを思ひて止まず、かく教場は生徒の心を引きて其處に止まるを欲するが如き所ならざるべからず、イエスは山上の教訓の中祈禱に就て語れる初の言によりて我儕の心を引ところの密なる室を設んとを要めたり若し我儕主の教訓に心を傾けば我儕の密なる室にて何を學ぶべきかを教へ給はん、イエスは度々父の名を用ゐて曰く「爾の父に祈れ」「爾の父は報ひたまふ」「爾の父は爾曹の求む

るものを知る」と、密室にて最も大切なるとは我父に遇とにして、密室を照す光明は父の御顔の光明なり、又イエスの此中に充さんと欲したまふ空氣即ち我沐浴し呼吸する大氣は父たる神の慈愛なり、此等のもの滿て後我儕が呼吸する思想と願禱は單一にして熱心に父に託する幼兒の如くなるべし、之イエスの我儕に教へんとする所なり、イエスは我儕を父の御前に携へ出づれば此處にて願ものを得主の我儕に教へんとするところを心を注めて之を聞くべし

「隱微たるに在す爾の父に祈れ」神は我儕の肉眼を以て見ると能はざるものなれば我儕神を拜するに自己の思想、行爲等を以てなさんとせば見ゆべからざる靈なる神に遇と能はず、然れども世より退きて獨り父を待ち望まば彼自己を

顯し其愛の光明心の中を輝すべし、密室に跪づき周圍の諸の物事より離るゝは我儕の見えざる者と眞正に交はるを得んが爲なり、されば我儕力ある祈禱の秘訣に從がひて能く祈るに至らん爲獨り父と密なる室に在んとを心に注むべし、父は密なる所に在しイエスは御言を以て自己が在るところを告げたまふ、キリスト信徒屢々密室の祈禱の思のまゝならざるを悲しみ己の弱くして罪深く心冷かにして暗きを感ず、是彼等の祈禱僅にして信仰喜樂を有ざるに由が如し、彼等は失望し思ふ如く父の來る能はざるより祈禱をなさゞるに至る、神の子等よ、爾曹の教師に聞けさらば彼は密なる祈禱をなすとき如何にせば善らんかと語りたまはん、父は彼處に我儕を俟つ、爾曹の心冷かにして祈禱絶な

ば慈愛に充る父、の前に出べし、父の其子を憐むが如く主は爾曹を憐むべし、爾曹は父、の御前に携へ出るものゝ僅少を思ふ勿れ、父は反つて多く爾曹に與へたまふ、唯主の御前に來りて其顏と其驚くべき愛を思ひ主に己の心の暗と冷かなるを訴ふべし、さらば父、は愛に充れば爾曹に光と熱を與へ給はん、イエスの言は何ぞや曰く「戸を閉て隱微たるに在す爾曹の父、に祈れ」と、神と唯ひとりあるを得るとは驚くべきことにあらずや、請ふ頭を擧て父、よと曰んことを「隱微たるに監たまふ爾の父、は爾に報たまふべし」イエスは此處にて密なる祈禱の結果あることを保證し其答我儕の生涯の中に顯るゝを告我儕人々の前にある我儕の生涯を神に託して神と密に偕にあらば彼は明顯に之に報ひ祈禱の

答を著るしからしめたまふ我儕の主は神が密なる所にて我儕に遇に無限慈愛と忠信を以てしたまへば我儕も祈禱の聞るゝを信じて幼兒の如くなるべきを敎ふ「神に來る者は彼を求むる者に報をなしたまふことを信ずべきなり」、凡そ我儕が密なる祈禱によりて恩愛を受るは我儕の强き熱心なる感情に因にあらず、唯父、の愛と力の故なれば主は爾曹の父、が密室に在して監且聞たまふを記臆て彼處に行き祈りて出よ、彼必らず報んと宣ふなり、されば彼を信じ彼に依ば父、に求むる祈禱空からずして、彼明顯に報たまふべし父、の慈愛を信ずることを堅からしめんためキリストは「爾曹の父、は求はざる先に需用物を知たまへば也」と語る、我儕初に之を見に當りて或は神我儕の要むるよりも能く知たま

へば祈禱を要せざるが如き思想起ると雖深く祈禱の性質を考ふれば此眞理は我儕の信仰を強むるに多の益ありて先づ我儕が異邦人の如く神の欲したまはざるとをならしめんと重復言を用ふるなからんとを敎へ我父は我之を要するとを實に知たまふやとの問を發するまで深く祈禱を考ふるに至らしめ神の旨に合ひて神の榮光の爲に求め居るとを靈によりて導びかれ信ずる時我父は是我要するものなるを知との信任を與ふべし、又縱令答遲あるとも耐忍を以て「父、よ爾は我に必要なるを知る」と云べきを敎へん、あゝキリストが我儕を神に近づかしめて與ふる兒童たる自由と單純は感謝すべき哉、我儕父の靈我儕の中に働らくまで彼を望み時々己の熱心なる祈願をなすに於て父、の知且つ聞きたまふを忘るゝに至らん時靜に我父、は見我父、は聞くと言べし、之を受る信仰を增しめ彼に求めたる所を得を知るといふに導びくべし

キリストの學校に入來れる人々よ、此敎課を實際に行ひ其によりて爾曹を完全しむる彼を信じ、人々を避けて神と密室に入べし、彼處にて父、爾曹を待ちイエスは祈るとを敎ゆべし、爾曹の最も高尙なる喜樂は父、と密室に獨あるとなれ、爾曹の日々の能力は密室の祈禱を父、明顯に報ひたまふと信ずるとなれ、又爾曹の求る所は爾曹に必要なりと父、の知たまふとを曉るによりて諸の祈禱を捧げ爾曹の神がキリスト、イエスにある榮光の富に從がひて與へたまふを信ずべし

主よ祈ることを我儕にも敎へ給へ

讃むべき哉主よ、我全心を以て爾が密室を爾の弟子等に遇ふ敎場となし父を現したまふを讃美す、あゝ我主よ、我心冷かになり暗くなる時我父の待ち給ふ所に行得るやう父の仁愛を以て我信仰を强め給へ、願はざる前に需用物を知り玉ふとの觀念によりて父は其子の求る所を與へたまふと信ずるに至らしめ密なる祈禱の場所を地の最も愛する處とならしめよ

又主よ、諸の人をして密室の祈禱を重荷の如く勤務の如き感あらしむるなく反つて其特權、快樂とならしめ、凡て失望せるものを引返し給へ、あゝ彼等が何をも有ざる時喜んで多く與ふるところの父に來るべきを曉り彼等が父の許に

携へ行くものを思慮はずして父が與へんと待たまふとを我等の思想に置しめたまへ、アーメン

第四課　模範の祈禱

然ば爾曹かく祈るべし天に在ます我儕の父よ　馬太六〇九

世の敎師たるもの其生徒を敎育するに當りて模範の力を知り唯彼等に何を爲すべきや又如何になすべきやの理論を敎ゆるのみならず實際當に爲り得べき模範を示すなり然れば我儕の敎師たるイエスも我儕の弱きを思慮り我儕が父に近づき奉るときに言ふべき言語を示し給へり、我儕之に於てかぎりなき生命の滿てるを見る、其言は甚だ單一にして三歲の幼童も容易に之を口にし得べく其意深長に

して之を翫味すれば神が我儕に與へ給ふ所の諸物を知るを覺ゆ、實に之れ我儕の祈禱の模範にして我儕之を神の前に唱ふれば靈魂自から恐敬の念を生ずるなり

「天に在ます我儕の父よ」此祈禱の言句を公正に論ずるに當り先づ聖書中何れの聖徒も未だ神を父と呼びしことなきを記臆せざるべからず、我儕は此初の一句によりて神の子イエスが己れの父を信徒の父とせんが爲に世に來りたまひし切要なる默示を見るなり、此中にはキリスト此世に來りて我儕を詛より免かれしめ神の子供と爲しめ給ふ救贖の奥義、聖靈によりて我儕に新らしき生命を與ふる再生の秘密、救贖の事未だ全たく成就せずと雖弟子等の口に此言を唱へしめ將に來らんとする恩惠を受るの準備とならしめ給ふ信仰の深意等を含蓄せり、而して此句は主の教へ給ひし祈禱の鍵幷に總ての鍵たるなり、之を翫味し之を服膺せんとするには生涯なほ短かしとす蓋し全く之を了解するは永遠に在るなり、我儕の神が我儕の慈父たることを知るの智識は最も初にして單一なりといへども祈禱の學校に於ては最も終にして且つ高尚なる學課なり、之によりて我儕生る神と親しき關係を受け神と愛の交際を爲すを得、抑祈禱の力起り且つ生長するは聖靈によりて顯れたる神の慈愛を知るによる、又廣大なる父の限りなき愛隣と忍耐幷に祈禱を聞き助けを垂れたまふ恩惠の深きを悟りて祈禱の生涯に一層大なる喜樂を得るなり、然れば我儕靈と眞を以て心に滿しめ聖靈によりて天に在ます我儕の父よといふ

に至るまで學ばざるべからず、我儕は尚覆面の我顔に存ずるを覺ゆるなり

「願くは爾名を尊崇させ給へ」此言句は我儕に奇異の念を生ぜしむ、然れども我儕の念ふ所に勝る大切のものなり我儕は通常祈禱に於て最初に己が必要のものを願ひ而して後神の喜び給ふ事神に屬すると願はんと欲すると雖主の祈り給ふとは大に其と異なり曰く爾名を尊崇させ給へ、爾國を來らせ給へ、爾旨をならしめ給へ、而して後我儕に日用の糧を與へよ、我儕の罪を赦せ、我儕を惡より救ひ出し給へ、之によりて見れば眞正の禮拜は初めに父に事へ神の事を求むべきなり、己を忘れ神の榮めらるゝ事を求むる人は必ずらず其祈る處に多くの幸福を受べし、未だ曾て父に獻げて

其報を失ひしものは非ざるなり

凡て我儕の祈禱は之に倣はざるべからず、祈禱に二種あり己の爲に祈ると人に代りて求むると也、人に代り人の爲に祈るとは我儕の祈禱中僅少にして且つ力薄し、故にキリストは他人の爲に祈る祈願と其信仰によりて主の業と世を愛し給ふ恩愛を地上に降し得る大なる働きに信者を習練せしめんが爲め祈禱の學校を開きたまへり、我儕の祈禱の目的他人の爲にも求むるとにあらざれば決して祈禱の生活に生長すると能はず幼稚の兒童は只己が事をのみ父に願ふと雖年長るに從がひ直に其姉妹の爲にも與へられんとを望む、ます〳〵成長して其父を助け父の職業を爲す少壯に至りては愈々其同胞の爲に願ひ而して願ふ所の

者を受く、イエスは諸の利益が父の御名御國御旨に屬して來る聖き生活を我儕に過さしめんと爲し給ふなり、願くは我儕も其が爲に存へんとを、凡ての祈念に於て我儕の父よ爾名を、爾國を、爾心の、と神の事を思ひ之を望まんとを、

爾名を尊崇させ給へとは如何なる名をいふか、父と稱ふる名なり、聖潔とは舊約書に多き言にして父と稱ふる名は新約書の專有なり、愛を含める此言に於て聖潔と榮光顯はる而して如何に尊崇らるゝや、神自からに由りてなり「我は汝の汚す我が大なる名を尊崇せん」とあるなり「我儕は神の子等の前に世界の前に神自から父と唱ふる御名の聖潔、靈の力、隱れたる榮光を顯はし給はんとを祈らざるべからず、父の靈は聖靈にして我儕靈聖によりて祈る時のみ御名を尊

崇むるを得、我儕の父よ願はくは爾名を尊崇させ給へと、我儕此祈に倣はんとを

「爾國を來らせ給へ」天父は王にして王國を有ち給ふ、世の王子又は嗣子は其父の國の榮んとを望むより外に願望あらず、戰爭或は危難に遇ふ時子の思ふ所は唯是のみ、然らば天父の子等は未だ全く御國の現はれざる敵の地即ち世にありて父の御名の崇めらるゝを願ふと共に御國を來らせ給へと勇ましく望み願ふとは自然の情なり、御國の來るとは天父の榮光の顯はるゝと其子等の幸福世の救贖に關する一大事なれば我儕の祈禱に於て又爾國の來るを待つ豈に「爾國を來らせ給へ」と主の待望み給ふ叫呼に倣はざらんや願くは我儕をしてイエスの學校に於て之を學ばしめよ

「爾旨の天になる如く地にもならせ給へ」此祈願は父の御旨の伸ざる時に祈るなり、神の御旨は天に於て行はる、主は其子等は從順なる精神を以て御旨の天になる如く地にもならんとを祈るべきを敎へ給ふ、何となれば神の御旨は天の榮光にして其行はるゝとは天の幸福なり、人の心に於て父の御旨の行はるゝ時は王國即ち來る、信仰は天父の愛を受納し從順は天父の御旨の御旨をなす、天に在るが如き從順の生涯を逐げんとを求むるものは小兒の如き祈禱をなす精神をもつものなり

「我儕の日用の糧を今日も與へ給へ」信者たるもの最初に御名の尊崇らるゝと爾國の來ると爾旨の成とを祈りしなら

ば其後我日用の糧を與へ給へと祈るの自由を有つ主人其僕婢に食物を與へ將帥其士卒を養ひ父母其子女を育つ況んや天に在す慈父は其榮光の現はるゝとを希ふ子等を守り給はざらんや、我儕は誠に此く言ふを得るなり、父よ我爾の譽と爾の業の爲に世に生存ふ、又爾が我を守り給ふとを知ると、神を崇め其旨を尊むものは此世の物品を得んとを祈るの自由を得、世に於ける生涯を愛ある父の手に託せ得るなり

「我儕に罪を犯す者を我が赦す如く我儕の罪をも赦し給へ」

食糧の肉躰に第一の要用なるが如く罪の赦免は靈魂にとりて最初に求むべきものなり、而して我に必要なる糧は又他人にも必要なり、我儕は神の子等なりと雖も又罪人たり故に我儕が天父に近接を得るは唯主の貴とき寶血により

て我儕を赦し給ひしに由る、我儕此祈禱の儀文に流るゝとなきやう慎まざるべからず、我儕が眞實を以て口に言顯はす事は眞實に赦免を受るを得、願くは信仰によりて約束の罪の赦免を受ん、是れ天父の慈愛を得其子たる特權を受るの門なり、此の如き罪の赦免を生る經驗として味はんと欲せば先づ他人を赦すの精神なくんばあらず、天に向て赦免を求むる時は地に向て人の罪を赦さゝるべからず、我儕天父に祈るに當り我は心より愛せざるもの一人もなしといふを得るものならざるべからず

「我儕を試誘に遇はせず惡より拯出し給へ」我儕日用の糧を求め罪の赦免を願ひ、而して我儕を罪惡と惡ものゝ力より免れて守れんとを願ふ、此三者の中に我儕の身に屬ける總

ての祈禱含まれたり、日用の糧と罪の赦免とは凡ての事天父の御旨に從がひ生んとを欲して己が身を託せ惡きもの の手に陷らざるやう心に住める聖靈によりて守らるゝとを信じ祈るとに伴ふものなり

神の子等よ　イエスは我儕が天に在す父に此く祈らんとを求めたまふ、願くは我儕の祈禱をして始に爾名爾國の行はれんとを祈らしめよ、然ば神の我儕を助け罪を赦し惡より守り玉ふとは必然ならん、父のものは子のものなり、祈禱は眞に神の子たるの生活に導びき得るものなり「爾の」又は「我儕の」といふとは偖に一つなるとを悟る、神を愛して「爾の」と願ふものは又「我儕の」といひて求むるを得るなり、此の如き祈禱は實に始たり終たるものにして神と愛の交通をなす

ものなり「國と權と榮光は爾の究なく有たまふ所なりアーメン」天父の御子なるイエスよ願くは「我儕の父、よ」と祈ることを敎へ給へ

「主よ我濟に祈ることを敎へ給へ」獨子なる我儕の主よ、願くは我儕の父に祈ることを敎へ給へ、主よ我儕爾に謝す、我儕に此生る恩惠の言を與へ給ひしことを、我儕爾に謝す、是によりて學びしもの多くあることを、主よ此の各々の言を爾の學校にありて學ぶに多くの週月を經るも尙其意深くして悟る能はず、願くは一層其意の深奥なる處を悟らせ給へ、天父の子なる爾の御名によりて祈り奉る

主よ子と子の顯はすものゝ外に父を知るものなしといひ給へり、又我爾の名を彼等に知らせたり、爾の我を愛する愛

彼等にも有ることを知らせんと述給へり、主イエスよ我儕に父を顯はし給へ、爾を愛したまひし限なき父の愛并に御名を我儕の上に在しめ給へ、其時我儕は「我儕の父、よ」と呼ぶを得、爾の敎を覺らん、我儕の心より發する祈禱は我儕の父、よ、爾名を尊崇させ給へ、爾國を來らせ、爾旨を爲らせ給へとなるべし而して神が此く父たるの愛によりて總ての事を守り給ふを信じて我儕の究乏罪惡誘惑を其御手に託すべし、榮光の主よ、我儕は爾の徒弟なり、我儕は爾に賴る、願くは我儕の父に祈ることを敎へたまへアーメン

第五課　應答の確實

求めよ然ば與へられ尋ねよ然ばあひ門を叩けよ然ば開かるゝことを得ん蓋は求むる者はあひ

門を叩くものは開かるゝべければなり　太七〇七、八

なんぢら求めてなほ得ざるは爾曹慾の爲に費さんとして妄に求むるが故なり　雅各四〇三

我儕の主イエスは山上の説教に於て祈禱に關して初めに暗密たるに在す父に祈らば彼が顯はに報ひたまふことを教へ幷に祈禱の模範を示したまへり、今再び最も大切なる祈禱の約束即ち祈れば必らず聞かれ確かに其答を得るとの契約を與へたまふ、看よ彼は多くの言を以て殆ど同一なることを説きたまふを、曰く求むるものは得尋ぬる者はあひ門を叩く者は開かるべければなりと、我儕之によりて神が我儕の祈に答へ給ふことを信じて待つを得、又待たざるべからずとの一の大なる眞理を心に深く覺らせんが爲六度も重

復して述べ給ひし主の御恵を感じ且つ天父の御慈愛の廣大なるを見る、祈禱の學校に於て求むる者は得るとの眞理より大切なる學課はあらざるなり、求めよ尋ねよ叩けよと主の述べ給ひし此三の言は互ひに其意を異にせるが如し果して然らば初めに述たまひし求めよとは我儕の願ふ賜物に關せり、我儕は施恩者の誰なるかを知ずして求め且つ施を受け得るなり、尋ねよとは神自から聖書に此言を用ゐて基督は我儕に自から遇はんと請合ひ給へり、我儕は常平主と交り偕に住むとなくして唯乏しき時神に來るのみにては未だ全しとすべからず、叩けよとは我儕が神と偕に住み神に在ることを許さるゝに就て語り給ひしなり、求めて賜を受ることは其恩施者に尋ね遇はしめ又天父の住家

愛の戸を叩き開かるゝに至らしむ、我儕茲に求め尋ね叩くとの空しからずして必らず神の應答を受け、神に遇ひ神の御心と其住家の開かるゝとは疑ふ可らざるものなりとの一事の示されたるを知る

主が此眞理を種々の言を以て敎ゆるの必要を感じ給ひし事は深く我儕の思はざるべからざるとなり、是主我儕の心の生れながら神に向て疑深く、信仰薄く、答を待ずして宗敎上の勤の如く祈禱を爲すに傾き易きを知り給へるが故なり、又縱令神が祈禱を聞き給ふ約束を知るも薄信の弟子には此事を信するの至つて困難にして甚だ高尙なるを知れるによれり、故に主は彼等が祈禱を學ぶ初に於て其心に求めよ、然は受けん、願ふ所の者は何人にても必ず得るとの眞

理を深く知らせんとなし給ひしなり

此の約束は神の萬世不易の律法にして我儕求めて尙得ざるは妄に求むるか又は其祈禱の全からざるに依る、我儕心を確にして正しき祈禱をなし得やう神の言と聖靈により敬を受け求むるものは得んとの主の御約束を信ぜずんばあるべからず

「求めよ然ば與へられ」祈禱の學校に於て耐忍の力となるものは此の言の外に有るとなし若し我儕祈りて尙得ざるは正しく祈るの道を學ばざるに因る、故にキリストの學校に於て學ぶ人々は求むる者は必ず與へらるゝとの主の御言を單一なる心を以て受けざる可らず、主の此く約束したまふは深き道理あるなり、我儕は人間不足の智識を以て主の

御言の深意を弱くせんとを恐る、彼天の事を述べ給はゞ我儕唯之を信ずるのみ、主の御言は信じて後明らかなるべし假令種々の疑問起り解し難きことあるとも其言を信ずるの前に己が意によりて是非を定むる勿れ、否我儕は唯主に總ての事を托せんのみ、其言を解き給ふとは主のなし給ふ所なり、我儕の勤は先づ之を受け其御約束を堅く信ずるにあり、願くは我儕心中に求むる事は得べしとの言を堅く記さんとを主の教訓によりて祈禱は人間に屬するとと神に屬する事との二の者より成立を見る、祈禱に屬する事とは祈ることをいひ、神に屬する事とは與へ給ふ事を指すなり、今此二の者を人間に屬する點より言はゝ完全なる祈禱には求むる事と受る事の二あり、主が述べ給へる如く何人の祈た

りとも信仰より出る兒童の如き祈禱の許容るゝは父の法則あるが故に我儕應答を受くる迄止むべからざるなり、されば答未だ來らざる時之れ神の旨なりとして自から放却し已が心を顧みず直ちに祈りを止むる勿らんとを欲す、否神は已に信仰より出る小兒の如き祈禱は必らず聞かんとの約束あれば其答なきは我儕の祈禱全からざるに依るなり、我儕は自から省み應答あるべき祈禱を爲し得る樣求めざる可らず、然れども我儕は常に信仰の祈禱を爲し得る迄聖靈によりて自己を省み潔められんとを欲するよりも寧ろ應答を受けずして祈禱を捨置を遂に易しとするなり、祈禱には必ず應答ありとの明白なる經驗を有せずして滿足せるもの、多きは今日基督信徒の生活に疾病ある恐る

べき證號の一なり、彼等は日々祈禱をなし數多の物を求めて其幾分は聞かるゝならんと信ずれども日々の生活に於て直接に祈禱の應答を經驗する事甚だ少なし、之に反して天父は己が子等の祈願に耳を傾むけ其願を許し日々偕に交らん事を欲し我儕が日々異なる懇求を以て其御前に來らん事を望み且つ願ふ所の者を日々我儕に與へん事を欲し玉ふ、古昔の聖徒神は活けるものなりと覺り其心に讃美と愛に勵されたるは神が祈禱に應驗し給ひしに依る（詩卅四、同七六〇十九、同百十六〇一）我儕の師なるイエスは我儕の心に祈禱の應答あるとを深く記さん事を望み給ふなり然れども神は人の願ふ所のものによりて或は其乞ふものを拒み給ふ場合なきにあらず、如何とあれば之れ神の御言にかなはざるが故なり、モーセがカナンに入らん事を願ひし時の如し、然れども決して答無に非ず、神は其御旨の在る所を必ず其僕に告げ給ふなり、異教の神は啞にして語る能はずと雖も我儕の天父は生ける神なるが故に我儕の求むる者を與へ給はざる時は其子イエスのゲッセマチの祈を聞き給はざりし時の如くに其子等に御旨の在る所を知らしめ給ふなり、僕なるモーセも子なるイエスも共に其祈る所神の告げ給ひし言に合はざるを知れりと雖彼等の祈りしは神の定め給ひし事或は變じ得べきかとの謙遜なる祈願にてありたり

神の御旨を知らんと欲して祈をなす所の者には神御言と聖靈を以て彼等が願求は應ふや否やを告げ給ふ、若し我儕

の求むる所神の御旨にかなはずんば直に之を止むべし、若し未だ其御旨を知る能はざれば答を受くるまで耐へ忍んで之を求めよ、祈禱は答を得んが爲に捧ぐるなり、天父と其子等の間に愛の交親を爲し得るは祈禱と其應答によりて

なり

我儕の心の神より遠ざかるは此の如き御約束を握るの困難なるより生ず、我儕神の御言を受け其眞理を信ずる時、心中其を味ひ樂むの甚だ鈍きを感ず、之れ蓋し我儕の心靈上の生活猶弱く神に就ける事を思ふの傾向少きに因る、我儕を敎ゆるものはイエスの外に非ざるが故に唯彼を待ち望むべし、而して我儕彼の御言を單純なる心を以て受け聖靈によりて其言を我儕の中の生命と力にならしめば其中に

含める眞理自から我儕の心に入りて求めよ然ば與へられ

との御約束を堅く信じて祈り得るに至るべし

主の學校に在る愛せらるゝ友よ、我儕をして能く此敎を學び其意の顯はるゝまゝに信ぜしめよ、人間の思考を以て其言の力を弱くする勿れ、唯イエスが我儕に與へ給ふまで之を信ぜしめよ、然ば彼定れる時に及んで我儕の全く了解し得るやう敎へ給ふべし、我儕は單に御言を信じ祈る度毎に求むる者は得るとの約束を握らんとを、我儕の不信仰なる弱き經驗をして我儕の信仰の受け得る全き量斗たらしむる勿れ、而して我儕祈る時のみならず常に地上に在る神の喜ぶべき契約を堅く守り應答を受け得るの價値ある祈禱を爲し得る爲にイエスを信ぜんとを、彼が今日與へ給ひし

「求めよ然ば得ん」との言を保たば彼必らず我儕を敎へて其眞理を悟らしむべし

「主よ祈るとを我儕に敎へよ」おゝ主イエスよ、爾が今我に約束し給ひし事を了解し得るやう我を敎へよ、御答の未だ來らざる時に如何なる方法を以て我心を省る可きやをかくし給ふ勿れ、おゝ我主よ、我心に我祈禱父の御旨に合はず恐らくは他に與へ給ふ善物あらん、或は應答なしと雖此儘にすべしと思ふ念慮屢々起る、然れども我主よ、爾は我に敎ゆるに此く言ひ給はずして祈れば必ず答を待べく又待ざる可らずと敎へ給ふ、而して爾は祈禱の答へあるによりて父、と其子等の間に交通をなし得るとを堅く示し給へり

榮光ある主よ、爾の言は眞實にして僞なし、我が答を受くる

事の明かならざるは妄に求むるが故なるべし、我が祈禱力なく信ずる心の乏しきは靈によりて生活するの心なきに因るべし

主よ我儕に祈るとを敎へよ、主イエスよ、我爾を信ず、信仰に在りて祈る事を敎へ、求めよ然ば得んとの今日の學課を我に敎へたまへアーメン

第六課　神の無限の慈愛

爾曹の中誰か其子パンを求めんに石を與へんや又魚を求めんに蛇を予んや然らば爾曹惡者ながら善賜を予ふるを知ましてや天に在す爾曹の父、は求むるものに善物を與ざらんや、太七〇九—十一

我儕の主は此等の言によりて既に敎へし祈禱に應驗あると

の確實なるを愈進んで明かに知らしめ諸の疑を取除き其約束の基く所を顯さんが爲め各人の經驗に訴へ照したまふ、我儕兒童たり能く己が父に求むるとあるを知る、我儕父たり常に此事あるを見る、我儕何處を見るも父が其子の求めに應ずるは最も自然の情たるを知る、主は我儕の眼を地の親より離して如何に多く天の父は願ふものに善賜を與へたまふを見ることを要め、又我儕をして惡き人間よりも神は大なるが故に我儕の祈禱を許容し給ふことも此世の父より大に確實なることを知るに至らしめたまふ、實に神は人よりも大なるが故に其祈禱に答へたまふことも亦地上の父より遙に確實なるなり

此譬は單一にして解し易しと雖其中に含める眞理は意深

くして解し難し、主は我儕に子たるものゝ願望の力は全く彼等が親に對する關係によることを思はしめ給ふ、然れば祈禱は神の子等が天父の業を勤め愛に居りて生活しつゝある時のみ其勢力あるものなり、求めよ然ば與へられんとの御約束の力は神と我儕の間に父子たるの親しき關係に基くものにして、もし我儕此の親しき關係に歩み生活する時は信仰あるの祈禱をなすことを得、而して其答を得るに至るは自ら生ずる結果なり、我儕が今日學ぶ學課は神の子の如く生活せよ、さらば子の如く祈るを得ん、子の如く祈るを得は必ず應答あるべしとの事是なり

眞の子たる生活は如何なるやとの問に答ふることは何れの家族に於てもたやすく見るを得、彼の父母を愛せず其命に

従はず家を捨たる無頼漢にして、尚願ふ處を得んと欲するも其父母誰か之に耳を傾けんや、之に反して父母の親、其旨其擧其愛を己が一生の快樂となす孝子の祈求は喜びて許容さるべし、聖書に曰く凡て靈によりて導びかゝるものは之即ち神の子なりと、されば諸の物を求る子たるの特權は靈によりて導びかるゝ子たるの生活より裂くべからざるものにして靈によりて導かれんと身を献げたるものは聖靈祈禱の時彼を導き而して彼は神が慈父の如くに諸の願に答へ給ふは神の子の如く生活せしによるを知るべし祈ることを信ずるとの根たる神の子として生活するとは如何なるかを知らんと欲せば唯山上の教訓に於て天父と其子等に關して主の告げ給ひしことを探究するにあり、其生命

ある訓誨中には祈禱にかゝはれる約束を含蓄せり、此二者は離るべからざるものにして主が語り給ひし訓誡を受るものにのみ祈禱の約束は應らるべし、恰も主は求めよ然ば受んとの契約を心の貧しき者心の清きもの其人は神の子と稱へらるべき者(太五〇三―九)人々の前に其光を輝かして天に在す父を榮めしむるもの、愛に於て歩む神の子たるに適ふ者、天に在す父の完全きが如く完全からんことを求むる者(太五〇四、五)斷食祈禱施濟を人の前にせずして隱れたるに見たまふ父の前になす者(太六〇一―十八)父か救したまふ如く人を赦す者(太六〇十五)諸の物に於て父に托せ先神の國と其義きを求むる者(太六〇廿六―卅二)主よ主よといふのみならず天に在す父の旨を行ふもの(太七〇廿)等に與ふと

いひ給ひしが如し、誠に此の如きものは父の子たり、此の如きは父を愛し其に事ふる生活たり、是に於てか答へある祈禱の泉の如く發生するを見るなり、然れども此の如き敎は弱き者を礙かさいるか、我儕先づ子たるものゝ形容を畫き出せるも之に由りて答を得る望を廢て可ならんや、我儕再び父子と稱せる榮ある名を思ふ時は其等の困難消滅す、兒童はすべて弱き者なり、兒童の間には年齡と賜に差等あり主は我儕に律法を盡く全悉するとを求め給はず、唯從順と眞實を以て全心を任せる子たるの生活をなすとを要めたまふのみ、彼の要求は之より多からず、又少からざるなり、父は我儕の全心を得んとを欲し、全心既に父の手にある時は彼れ我儕の熱心なる渴望を以て諸物を求むるを見又子たる生活をなさんとを欲するを見て其祈禱を神の子たるもの、祈禱として許容たまふべし、何人も單純に正しく山上の垂訓を學びて其を己が生活の導きとなさんとを、然らば縱令彼れ弱く過まるとありとも常に祈禱にかゝはれる約束の應驗を受る自由を有し而して父子と稱する子名に於て其願求を許さるゝ證を得ん、是れイエスが敎へたまふ最も重大なる訓諭にして彼が其學生に學ばんとを欲し給ふ處のものなり、結果ある祈禱をなすの秘訣は我儕が神の愛に滿されたる心をもつとにして唯我儕神は父なりと知るのみにては未だ全しとすべからず、イエスは我儕に父なる名の含む處の味ひを覺るとを求め給ふ、我儕は己が知るところの最も善き地上の父を思ひ其子の道理ある願望を許

容す處の其憐憫と慈愛を考へて如何斗り天の父、――無限の慈愛ある父、は正しき我儕の願求に喜び憐を以て遇ひ給ふかを察せざるべからず、神の量斗は我儕の解する外にあり神の祈禱を聞かんと待ちたまふとの如何なるかは我儕の知り難きとなるを感ずる時主は我儕に聖靈によりて神の愛裕に注かん爲心を開き來らんとを望み給ふ、願くは我儕をして唯だ祈らんとを欲する時のみならず常に其愛に居らん爲心と生涯を神に捧げしめよ、何ものかを得んと欲する時のみ父の、愛を知らんとを欲する兒童は常に失望多し

と雖日夜何事に於ても神をして父、たらしむるもの父、の御前と其愛に居る處のものは神の限なき慈愛に於る生活と祈禱の應驗とは常に偕に伴ふものなるを知るべし

愛せらるゝ友よ、我儕日々の祈禱に答の少きとの理由即ち主が我儕基督の學校に於て祈禱界の玄奥の幾部分を考究せり、主は先づ高尚なる學課アバ父、よ天に在ます我儕の父、よと言ひ得るやう學はざるへからざるを敎へたまふ、誠に此く言ふを得るものは諸の祈禱の鍵を有つなり、爾曹の父、は求る者に善物を予ざらんやとの神の御言を信じて祈禱の天に向て發するまで我儕は此世の父母が病に衰弱せる子女に耳を傾くる情愛に於て其口吃る兒童の叫びを聞く喜樂に於て其あどけなき幼兒に堪ゆる温柔なる忍耐に於て即ち此等の多くの鑑に照して我儕の父、の御心を學ばずんばあるべからず

主よ祈ることを敎へ給へ、

榮光ある主よ、これ爾の學校に於て最初學ぶべきものゝ一にして且つ榮光ある學課なりと雖又我儕に最も學び難きものゝ一なるとを知りたまふ、我儕は天父の御慈愛を僅かに知るのみ主よ世の父母の愛よりも天父の愛の我儕に一層近く明かに且つ親しくありて其愛に居ることを教へ給へ、我儕の祈禱に天父の耳を傾け給ふとの確實なるは天の地よりも高きが如く神は人より限なく大なるが故に世の父母に於ける信任よりも大なるべきを知らしめ給へ、主よ、祈禱に答なきは唯天父と我儕の間に我儕が神の子の如くあらざる隔礎のあるに由ることを顯し神の子たる眞の生涯に導かせ給へ、主イエスよ、兒童の如き倚賴心を喚起すは父たるの愛なり、おゝ我儕が兒童の如くなり得るやう父と其愛

をあらはし祈禱の力は神の子たる生活に存するなるを教へ給へ、

榮光ある神よ、父、爾を愛し諸の物を爾に與へたまへり、爾が父を愛し其命ぜし凡ての事を成就たまへり、故に爾諸の物を求むる力を有たまふ、主よ、爾の靈神の子たるの靈を與へよ、爾が世に存せし樣に均しく我儕を兒童の如くならしめ給へ、我儕祈禱の時神の父たる愛と其我儕に求むる所を與へんと備へたまふとは天の地よりも高きが如く我儕の思ひ得るよりも甚だ勝れたるものなるを信ずるに至らしめ給へ、アーメン

註解　此はマークガイ、ピアースの「聖潔に於ける思想」と稱する書より拔萃せるものなり、聖潔の深は神の父たるとを知るに由る事は祈禱に於ても眞也、

「天に在ます爾曹の父」、我儕は唯此言を我儕が神の從屬なる

を顯さんためにのみ發し又淺薄なる意味を以て神の名に用ゆる地上の慣習より借り來れる譬の言なりと考へ神を我儕の柔和なる憐憫深き父の如く受るとを恐れ彼は學校の師傅又は之よりも尚遙に我儕を知らざる我儕の學課を學ぶ時のみ我儕を知れる監督者其目は學生を守るにあらずして唯書藉の上にあるもの丶如く思惟するなり怯懦なる神の子等よ、心の耳を開き爾曹の靈魂に此等の言を銘すべし、我儕の天父の慈愛堪忍憐憫は聖靈に至る源なり、我儕の聖からんとを學ぶは學校に於て學ぶ困難なる學課の如きものにあらず、我儕を助けたまふ父と偕に家にありて學ぶなり、神の爾曹を愛するは爾曹の怜悧なるが故にあらず、善良なるが故にあらず、たゝ神が爾曹の父たるが故に

なり、基督の十字架は神をして我儕を愛せしめず、これ唯神の我儕を愛する愛の分量又は其より生じたる結果なり、彼は其の諸々の子を愛す其中最も惡き者鈍きもの愚なるものも尚其愛に漏ざるなり、彼の愛は凡の者に缺くべからず我儕之を宗教上生活の堅き基礎として取り是に成長するに非ず之より成長せざるべからず諸の事之より始めざるべからず然らざれば何事もならざるなり、爾曹堅く之を握るべし我儕は何事に於ても冀望能力信任を得ざるべからず、若し我儕「天に在ます爾曹の父」との言に於て始めば何の冀望か何の能力か何の信任かこれ生ぜざらんや我儕は爾曹の父、との言の中に存する仁愛と能力とを悟るを要すれば驚くべき眞理の自己に感ずるを得るまで其等

の言を唱ふべし、我儕他に如何なるものありと雖受べからざる神の仁愛能力幸福を受る權を有ところの最も密なる親しき關係に於て神と我儕繋がれ居ることを之によりて知なり、おゝ我儕の神に近づき得る氣勇の源、おゝ我儕が祈る權をもつ大なるもの、「爾曹の父」との言——之に由りてすべて神の限なき仁愛堪忍智慧が我を助けん爲に我上に傾き居るを悟る、此の關係に於て只聖潔の能ふべきを知のみならずなほ之よりも多きを覺ゆるなり

我儕の父の堪忍たまふ愛に於て始めざるべからず——神が我儕の性質薄弱困難を知りたまふを思ふべし、世の主人は僕のなせる結果によりて判斷と雖我儕の父は我儕が將になさんとする勉強によりて決したまふ、失敗は常に過失を

意せず、人の臆斷ところの者を神既に其價値と料量を知るなり、「爾曹の父」——神は他のものが恐なる意味なきものとなせる此言に如何ばかり彼の愛を含ましめ給ひしかを思ふべし、此の榮光ある關係を爾のものとして取ることを恐るゝ勿れ、

第七課　諸物を含める賜

然ば爾曹惡者ながら善賜をその兒童に予るを知ましてや天に在す爾曹の父は求る者に聖靈を予ざらんや　路十一〇十三、

主は山上の訓誡に於て其驚べきまして〇やとの言を發せり今路加傳の此章に於て同じ問を復記せるが稍異なる所あり、善賜を與ふべしとの言に換てまして天に在す爾曹の父、

は求むる者に聖靈を予へざらんやと記せり、之れ彼が我儕に善き賜の中にて最も貴重にして且善なるものは聖靈なりと或は寧諸の賜が此の中に含蓄せりと敎ゆるなり、聖靈は父の賜の中第一のものにして彼が予ふるとを最も喜びたまふところのものなり、故に我儕の初に特に求めざるべからざる賜は聖靈なり

此賜の言ふべからざる貴きものなるとは我儕の容易了解し得る所なり、イエスは聖靈に就て神の父たるとの顯るゝ一の約束即ち「父の誓のもの」(○路廿四九)なりと告たまへり、善良なる賢き父の此世に於て兒童に與ふる最も善き賜は己が靈にして敎育上父の大なる目的は其兒童に己が性質と品格を予ふることなり、若し兒童能く其父を知り其意を解せば

若し彼成長してすべて父の旨と其企望にかなはば若し彼其父に於て己が最上の喜樂を得ば是れ兒童其父と一意一靈たるに因る、故に神が其兒等に彼自らの靈よりなほ善賜を與ふとは全く想像の外にあり、神は其靈によりてあらはる靈は眞に神の生命なり、されば今神が地上にある其兒等に己が靈を與へたまふとは如何なる意の存するかを考ふべし

父の靈がイエスに在りしは地に於て子たる彼の榮譽にあらざりしか、ヨルダンに於て其「バプテスマ」の時伴ふもの二つあり之は我が愛子と告る聲并に臨降れる靈なり、使徒曰くなんぢら既に神の子たるとを得しが故に神其子の靈を爾曹の心に遣りアバ父、と呼ばしむ(四路○六加)王者其子を敎育

するに當り彼に王の如き精神の發せんことを求む、天に在す我儕の父、は我儕をして己が住むところのきよき天の生涯に入しめん爲に我儕を其兒等の如く敎育し之が爲に御心より其靈を與ふ、イエス己が血を以て贖罪をなし後神の御前に昇りたまひし目的は聖靈を我儕の爲に得彼を我儕の中に住しめんが爲なり、聖靈は父、と子の靈たれば其生命仁愛ともに彼にあり、彼我儕に降りて父、と子の交接に入れたまふ、父、の靈としては彼御子を愛せし父、の愛を我儕の心に注ぎ其中に住べきを敎へ子の靈としては我儕に子が世にいませし時有たまひし兒童の如き自由敬虔從順を吹込みたまふ、父、は己が靈子たらしむる靈よりもまさりたる高尚なる賜を與ふる能はざるなり、此眞理は自ら神の第一に與

へたまふところの此の賜が凡の祈禱に於て我儕の第一に求むべき重大なる目的なりとの思想をあらはす、心靈上生活に最も必要なるものは聖靈なり、凡の物イエスに滿ち恩惠と眞理は彼に滿り、我儕之によりて恩惠に恩惠を加らる聖靈はイエスに充る所のものを幸福なる經驗によりて我儕の所有物たらしめんが爲命ぜられたる傳達者なり、彼は基督に在て生命の靈なり、世の生命の不思議なる如く彼によりて得る我儕の生命も亦大に不思議なり、我儕己が身を全く聖靈の指揮にまかせ己が道を與へば彼必ず我儕の中に基督の生命をあらはし神の力を以て絶ず基督の生命を我儕に保たしめたまふべし、眞に我儕をして父、の玉座に近よらしめ其處に居しむる祈禱あらば是必ず大なる分量に

て我儕に注ぎ且つ溢ふゝ神の子として受たる聖靈を求めしによるべし

聖靈の與ふる賜は種々なるにより信者各自の必要に應ずるなり、恩惠の靈はイエスに在る凡の恩惠を顯はし之を與へ信仰の靈は信を起すべく增すべきを敎へ保證の靈は我儕が神の子たるを證しアバ父と呼ばしむ、眞理の靈は凡の眞理に導き神の言を實際に我儕のものとならしめ祈禱の靈我儕其によりて父と語るを得るものは必ず聞かるべき祈禱を敎へ裁判の靈燒盡す靈は心腸を探り罪惡を知しめ聖潔の靈は我儕の中に父の潔き存在を顯し之と交らしめ能力の靈は大膽に父を證し能力を以て働くを得せしめ榮光の靈は我儕が神の世嗣たるの證典にして來らんとする

榮光を預め味はしむ、實に我儕神の兒童たる眞誠の生涯を遂んと欲せば唯一つのものを缺くべからず即ち聖靈に滿さるゝこと是なり

さてイエスが今日其學校に於て我儕に敎へ給ふ學課は之なり、曰く父は「爾曹善賜をその兒童に予ふるを知ましまして天に在す爾曹の父は求むるものに聖靈を與へざらんや」との言に依りて兒童の如く求むるものに靈を與へんと待望みたまふなりと、「我豐かに我が靈を注がん」との神の契約及「聖靈に滿され」よとの命令により神が與ふる所の量、我儕が受得る所の量を知を得、神の子としては我儕已に靈を受たり然れども尙其特別の賜と働あらんことを祈らざるべからず、只之のみならず全く彼の支配に入り絶ず其御導を受る

を要す、恰も已に液汁を以て満たる葡萄蔓の其果實を完に至らせんが爲液汁の絶ず流れ出んことを欲するが如く信者たるものは靈に満さるゝことを喜び之をのぞみ呼叫さるべからず、神の契約と其命令はたゝ我儕の望求と祈禱の量斗にして豐に靈を受くべしとは大敎師なるイエスの敎ゆる處なり、彼はまことの言を以て我儕の祈る時必ず得る抵當として我儕に與へり

我儕をして之を信ぜしめよ、靈に満さるゝを願ふとき感情の上に答あらんことを求むる勿れ、凡ての心靈上の恩寵は信仰によりて取ざるべからず、我は祈りつゝある兒童に父の聖靈を與ふるを信ず、今にても我が祈るとき我は信仰によりて祈るところのものを得、聖靈の充満は我のものなりと

言はざるべからず、堅く此の信仰に於て續かしめよ、我儕は其求る所のものを得ることを知る我儕をして祈禱の聞れし感謝を以て信仰により已に與へられたる恩寵の我儕の全生に満つることを信じて祈禱を斷ざらしめよ、全く靈の住たまふに至るため我儕の靈魂を開くところのものは此の如き信仰ある祈禱感謝なり、唯祈り望むのみならず充分の恩寵を握るを得るは此の如き祈禱なり、凡て我儕の祈禱に於て救主の此日敎ゆるもし地上に於て最も確に信ずべきものあらば之れ即ち父、が其靈を我儕に満たしめんことを望み其靈を與ふることを欣こびたまふことなりとの敎訓を記臆せしめよ、

主よ我儕に祈ることを敎へ給へ、

天にある父よ、爾は我儕に爾の父たる愛、我儕を愛する處の大なる愛を現はさんが爲爾の御子を遣したまへり、彼れ爾が我儕の祈禱を聞きて與へたまふところの凡ての賜の中最も高貴なるものは聖靈なることを敎へたまへり、おゝ我父よ、聖靈を以て滿さるゝことの外何をも望まずとの祈禱を以て爾に來る、聖靈の予へたまふ幸福は言ふべからざるものにして之れ我儕が要する所のものなり、彼れ我心に爾の愛を注ぎ爾を住しむ、我之を望む、彼はキリスト父の愛にをりて生きたまひしが如くキリストの生命と心を我に與ふ、我之を望む、彼は上より我が歩を守り我が働を助く我之を望む、おゝ父よ、我爾に求む、願くは今日聖靈を滿しめよ父よ我れ我が主の「まして……との言により之を願

ふ、我れ爾が我祈禱を聞き我が願ふところのものを我受るを信ず、父よ、爾の靈の充滿は我がものなり、我求め我之を得信仰の賜として今日爾の賜を受く信仰によりて我父靈を以て其約束したまひし凡ての事を成したまふを知る、父は其待ち望む兒童に其靈を吹を欣びたまふなり、アーメン

第八課　神の友の大膽

また彼等に曰けるは爾曹の中もし或人夜半に其友に往て友よ我が朋友旅より來りしに供ふべきものなきゆゑ三のパンを借せよと曰はんに內におるもの答へて我を煩はすなかれ既や門は閉われと共に兒曹も牀に在ば起て予る能はずといふ者あらんや我なんぢらに告ん其友なるによりて

起て予されどもひたすら請が故に其需に從ひ起て予べし

路十一、五より八

主はじめて山上の説教に於て其弟子等を教へ給へり、弟子等イエスに祈禱を教へられんことを求めしはほとんど一年後のことなり、イエス彼等に何を祈るべきやを教ゆるところの「主の祈禱」をしめし又如何に祈るべきものなるかを告げ神の父たる慈愛と應答の確實なることを語れり而して其等の間に半夜朋友門を叩くの美麗き譬喩を加ふ其中二個の教を含めり、即ち神は唯我濟各自の爲のみならず我濟の周圍にある滅ぶるものゝ爲にも祈るを欲することと此の如き祈禱に於ては屢々大膽あるを要すとのことなり

此譬喩は人の爲に祈るところの祈禱に關して多の教をなす、其中に於て初めに「我か朋友旅より來りしが」と叫ぶ缺乏「三のパンを借よ」といふ信任次に「起て與ふること能はす」と慮らざる拒否「ひたすら請か故に」と敢て求むる耐忍終に「其需に從ひ起きて與ふべし」と祈禱の應答等を見る之れ屢神の祝福を受くる祈禱と信仰の程途たるなり

我儕に祈禱は神の友情に訴ふるものなりとの切要なる思想を得せしめよ、我儕神の友となり此の如く彼に行かんと欲せは我儕自ら窮乏者の友たることを證せざるへからず我儕に神の友情と他人に我儕の友情とは共に離るべからざるものにして人を憐みて父に來るときは答て求むるに

於て大なる自由を用ゆるを得

祈禱に二つあり、一は我儕の生涯の爲に能力と祝福を得る

の祈禱一は基督我儕を其交接と教訓に入れ給ひし祈禱の

眞の榮光即ち神の子の他人の爲王國の爲に祈るところの

祈禱なり、我儕は聖書に於てアブラハム、モーセ、サムエル、エ

リヤ其他の聖徒等の他人の爲に祈りし祈禱の力あり且つ

聞れたるを見る我儕神の祝福を得るは自己を獻るにあり

神の友情を得るは窮乏者滅亡者の友として神に近づくに

あり、窮乏者の友たる義人は眞に神の友なり、之祈禱に驚べ

き自由を與ふ、主よ我助けざるべからざる窮乏者あり、友と

して彼を助けんと欲す、爾は我友なり、爾の仁愛と富は限な

きを知る、爾は我求むるところのものを我に與ふを確信す

我が如き惡ものすら尚我友を助けんとす況して我が天の

友なる爾は今其友の求むることを成給はざらんや

神が父、たることは彼我儕の友たりとの思想の與へ得ざる

父、は友より勝れりとの信依を與へざるかとの疑問發す然

れども我儕深く考ふれば神の友情も亦新しき驚異を與ふ

兒童父に求て得るは自然にして其子に與ふるは父、の務な

りと覺ゆれども友の親愛は多く自由にして自然にあらす

同情と性質に依が如し、兒童の親に於ける關係は全く從屬

にして人の朋友に於けるは同等なり、我儕の主は祈禱の奥

義を悟らせんと其心意其生涯共に神と均き朋友たる關係

に於て我儕を神に近けたまふなり

されは我儕神の友の如く生活して居ざるべからず、我漂泊

者たるときもなほ子なりと雖も友たることは其行爲に由る、「凡て我がなんぢらに命ずる所の事を行はゞ即ち我友なり」(約一五、一四)その信仰行と共に働き且つ行に由て全備を得たるを爾見るべし、これ聖書に錄してアブラハム神を信ずず其信仰を義とせられたりと有るに應へり、彼また神の友と稱られたり(雅二、廿二廿三)、我儕を導き我儕の神に受いれられたる證をなすものは靈なり、又祈禱の時我儕を助くるものも同じ靈なり、我には夜半にても行くを得る友ありと言ふ驚くべき自由を與ふ所のものは神の友たる生涯なり況んや我眞の信誼己を助けら心を以て我友を助けられんことを要め親愛を顯はせる信誼の精神を以て行く時に於ておや、我神に祈る時神常に我

祈禱の目的は何なるかを見る、若し其恩惠を求むること唯我が安慰と喜樂の爲ならは受る能はずと雖も他人に祝福を與ふることにより神榮光を受たまふべしと言ふを得ば我か求むるところ空しからず、然りと雖も縱令我が他人のために求めんと欲するも神の我に多くのものを富しめたまふまで待んとせばこれ彼等を助けんとする獻身的又は信仰の行爲にあらず、故に何の答をも受けさるべし、之に反して我既に我乏しき友を擔任たり我既に我か貧しきに於て愛の働を始たりそは我を助くる友あるを知るを以てなりと言を得ば我か祈禱聞るべし「其需に從ひ起て予ふべし」とあゝ我儕はともしきに於て地の友の爲天の友に向て訴ふる時如何ばかり多く其懇願の報あるやを知らざるなり

然れとも常に忽ち答あるにあらず、人其神を喜び榮め得る所の唯一のものは信仰なり、人に代りて求むることは信仰を練磨する學校の一科にして其によりて人と神とに對する我儕の交誼を試練らる、即ち己か時を費し安眠を犧にし夜半と雖も家を出て窮乏者の爲に願ふ所のものを得すんば已さる程彼等に對する我か交誼の眞實なるか及び神に依賴り彼か與ふるに至るまで懇願る程神に對する我か交誼の明白なるを試らる

深き天の奥義なる哉此耐忍の祈禱是れ約束せし神其定まりたる冀望は祝福を與ふる神に基けばなり、地にある友等をして天にある其富る友を知らしめ之に信さしめん爲に彼其答を遲くし之によりて如何に耐忍の行はるゝや及ひ

唯之を始めなば天に於て非常の力あるを彼等に敎ゆ又約束を見之を抱きて尙得さるところの信仰あり(希伯來十一、十三ー三十九)祈禱の答未た來らす最も堅く信ずる約束の効果なきが如く見る時に黃金の火に入らるゝよりも貴き信仰の試練を受く此試練に於て約束を抱ける信仰神の榮光を見んが爲神との聖き直接の交際に入り清められ强くせらる而して見へずと雖も活る神の應答を受るに至るまで約束を堅く保つなり

其父に奉事するに當り愛の業を爲さんと求むる所の神の子等よ、勇ましくあれ、親と子敎師と生徒訪問者と其場所聖書講義と其坐の者說敎者と聽聞者――其小き周圍に飢餓の荷を負ひ亡ぶる靈魂を擔ふ各自の人々よ、勇ましくあれ

神か耐忍んで祈るところの祈禱を求むることと及びひたすら請べき必要あるが如きは我儕に最も奇異の念を起さしむ、主は我儕を教へんが爲此奇異なる譬喩を取りもし利己的なる地の友の不信誼すらひたすら請が故に服せしむるを得ば況して與ふることを好みたまう天の友に於ておや我儕の得ざるは其心のよからざると彼の與ふる賜を保つ能はざるとによる、おゝ我儕彼に感謝せんそは彼の答ふることの遲きは我儕を眞の位置にあげ彼も我儕の力の業務を教へ神の友たるべき疑はざる信仰の交接に入りて彼と偕に住しめんが爲我儕を練たまふ故なればなり、我儕離るべからざる此三重の繩を堅く握らんことを、これ飢たる友が助を乞する事祈禱の友が助を祈る事全能の友が其求め

に從がひ與ふるを好むとの三なり

主よ我儕に祈ることを教へたまへ、

おゝ我榮光の主又師よ、我祈禱により爾に行ざるべからず爾の教辭は榮光あり又解するに甚だ高尚なるを覺ゆ、我れ爾の父を我友として交はり得る此大膽なる思想をとるには我心甚た小なるを言ひ顯はさゞるべからず、主イエスよ爾の御言と偕に爾の靈を我に與へられん爲め而して我心に御言を活しめ且つ力あらしめん爲め爾に依る、我は「ひたすら請が故に其需に從ひ起て予ふべし」との今日の御言を忘れざらんを望む

主よ、我耐忍の祈禱の力をなほ知り得る爲め我を教へよ、我知る父、は其恩惠を我儕のものとならしめんが爲め我儕の

内部の生命を發達せしめ成熟せしめたまふを、我知る彼は其好みたまはざるが如く見ゆる時にも彼をとらへて離れしめざる程の强き信仰の習練を我儕に得せしめたまふを、我知る彼は我儕の祈禱によりて如何に其賜を與へしかを曉るところの驚くべき自由を我儕に得せしめたまふを、主よ、我之を知る、おゝ靈と眞を以て之を見ることを敎へよ今我れ夜半にてもすべし餓たる滅るものを助け天にある我が富る友の施主となるは我生涯の喜樂なり、そは我れ需に從ひひたすら請が故に耐へ忍ぶところのものに常に與ふる我友を知ればなり

第九課　工人の供給

其時弟子等に曰給けるは收稼は多く工人は少し故に工人を收稼場に送らんことを願ふべし　太九、卅七卅八

主は屢弟子等に祈禱の必要と其方法を敎たりと雖も其目的を告げ給ふこと甚だ稀にして唯彼等の缺乏を感ずると靈の導に任たり、然れども今彼明白に收稼の多く工人の少きを見て工人を送られんことを其稼主に叫ふべしと此一の目的を記憶るを命ず、夜中の友の譬により祈禱は己がことをのみ求むべきものにあらざるを示し再び此所に於て他の人には恩惠を給へ得る力あるを見せしむ、天父は稼主なり、我儕聖靈を求むるとき收稼の爲に工人を送らんことを祈らざるべからず

キリストの其弟子をして如此祈らしむるは甚だ奇異べき

ことにあらずや、彼は自ら祈る能はざりしや、彼の一度の祈禱は弟子等の千度の繰言に勝らざるや、神即ち稼主は工人の欠乏を見ざるや、其御意に適ときに彼等の祈禱を待ずして遣さゞるや、此の如き疑問は我儕をして祈禱の玄奥と神の國に於ける其の勢力を悟るに至らしむ、我儕は此等の疑問に答ふるによりて稼穡の收穫と神の國の來ることゝは大に祈禱に依り祈禱は一個の力たるを知るなり

祈禱は儀文にあらず又外見にもあらざるなり、主イエスは眞理にして其の語るところのことゝ一として眞實ならざるはなし、其の弟子等に工人を送らんことを求よと命ぜしは牧者なき羊の如く衆人流離になりしを見之を憫みたるときなり、彼の此く命ぜしは誠に彼等の祈禱の大に益あるを信ぜ

しによる、聖きイエスの眼中には我儕に穩れある靈界の事物明にして彼は其中に於ける源因結果の理を深く究め神がアブラハムモーセヨシユアサムエルダニエルの如き人々を召き彼等に己が名によりて衆人の上に權を取らしめし時に彼等の要する諸のものを天の力により求むるの權をも授しを悟り今將に古聖及び己が爲したる事業の其弟子等に渡べき時の來れるを見其成功如何は全く彼等の忠不忠に依るを思ひ又人間の靈肉を有る一人としてイエスは已が暫時の働にて此の多くの流離る羊を救ふに足らざるを感じて彼等に祈禱の中最も重要なるものゝ一として稼主に工人を收穫場に送らんことを祈るべしと語れり、彼等に收穫を托し、其成果を大に彼等に依しめし神は必ず共

に働くべき工人を求るの權を彼等に與ふるなり

已に熟したる世界に工人の必要を感じ誠に之を慨もの甚だ少し、又工人を祈禱によりて得ると確く信ずるもの至て稀なり、蓋働の乏きを知らず之を論ぜざるにあらず缺乏を補はんと種々の方法設られざるに非す、唯收稼の主は祈禱に答へて工人を送るべしとの信仰を有ち收獲の時已に來れる田野の此祈禱なくんば獲る能はずとの確信を抱きで牧者なき羊の如くさまよふ人々を思ふもの少きにあり、驚くべき哉、主が己の躰なる教會に其事業を耗せしこと、實なる哉、主が工人の數と收稼の多寡さへ信者の祈禱に全く依しめ天地の中にて働らくべき勢力を與へしこと、あゝ悲むべし我儕は何故心より主の命令に從ひ熱心に工人を求め

ざるや、蓋二つの理由あり一はイエスが此く祈れると命ずることに當りて起せし其憐憫の情を考へざる故なり、凡信者は己の如く隣を愛すること及び神の榮光の爲同胞兄弟の中に己が全身を盡すことは天父の第一の誡なるを知ときは主より依托されたる責任として滅者を受べきあり、唯其を働らくべき田野の如く受るのみならず己が喜憂の全く關するものゝ如く之に對せば未だ嘗て感ぜざりし愛情を以て滅亡んとする靈魂を憐み熱涙を以て主よ工人を送りたまへと號叫は必せり、二は信仰の薄弱に由る、我儕は祈禱の力によりて定りたる結果の生ずるを信ずる甚だ薄く神が我儕の祈禱を聞きて其を與ふべしとの信仰を得るに至るほど神の國と其業の爲に全身を投せず神に近かざるなり

願くはキリストの愛情我儕に注ぎ聖靈我儕の祈禱を聞きたまふことを證したまふキリストと偕なる生活に入らんことを祈らん、此の如き祈禱に於ては二つの恩惠を求むべきなり、一は全く己を神に託せたる人の增加せんことなり、キリストの敎會に於て神の言を敎ゆる敎師役者宣敎者として一身を主の業に捧げたる人を見る能はざるときは大に慨歎すべきなり、神の子等敎會の爲め又は已が周圍の者の爲に之を祈らば神必らず報ん、主イエスは今日收稼の主なり、彼已に高められて聖靈の賜を與ふるものとなれり、其與ふる第一の賜は聖靈に滿されたるの人なり、然れども賜の與へらるゝは頭なるイエスと其肢体なる信者と共に働くによる之を導くものは祈禱にして信じて祈るところには

工人と其方法を得るに至らん

二に求むべき恩惠は前のものより劣りたるものに非ず、各の信者は工人なり、神の子等の中一人として其業の爲に贖はれざるものなし、我儕は主の民皆聖靈に滿され一人にても其葡萄園に怠るものなからんことを祈らざるべからず工人の乏しき所適當なる工人なき所に於て祈禱は其を與ふと約束せられたれば此約束なき日曜學校聖書研究會はあらざるなり、之を求むるに於て或は時間と忍耐とを要することあるべしと雖も稼主に願へとのキリストの命令は祈禱の聞るゝ確實なる保證なり曰く「我爾曹に告んその需に從ひ與ふべし」と、我儕は此世の需用に對し神の業を勤む工人を得るの力を祈禱に於て與へられたり、收稼の主は

必ず聞き此命令を與へたるキリストは其名と榮光の爲に捧ぐる祈禱に力を添べし、工人を求めよ、之によりて我儕に此祈禱を求むる原因なる主の愛情を受るを得ん、神の國の進歩の中にて大能の神と共に働くものたるの位置に高められ又艱める靈魂の重荷を輕め主イエスの喜樂に入り得易からざる幸福をもつに至らん

主よ祈ることを敎へたまへ

榮光の主よ爾は亦甚だ驚くべき敎訓を與へ給へり、我儕敬しく祈る、願くは爾の語りたまへる靈の現實を見るを得せしめよ、滅ぶるもの多く工人の來らんことを仰て待つ、主よ我儕が憐憫と愛情を以て其を見るにいたらしめよ、工人は甚だ少なし、これ信仰と祈禱の足らざる證にして我罪の恐

るべきを我儕の心に銘せしめよ、工人を送らんと備へたまふ稼主は活く、主よ彼が答へんと祈禱を待望みたまふを示し給へ、祈るべしとの命を受たる弟子多し、爾の靈を注ぎ爾の契約に忠實なることゝ其憐憫とにより彼等を絶ず祈ることに導きたまへ

ゝ我儕の主よ、我儕は爾が怠慢なる不忠なる人間に此の如き力を與へ此の如き事業を任したまひしを解る能はず只管工人を得たために日夜叫ぶことを敎へたまふを謝す、主よ靈を注ぎて爾の子等をして神の國と其主の榮光の爲にのみ活ることを學ばしめよ、即彼等の祈禱が遂るを得るの信仰を得せしめよ、何れの祈禱に於ても活ける神を愛する信仰を以て奉げまつる祈禱は必らず答へありとの確信をし

て心に充しめよ、アーメン

第十課　目的の必要

イエス答へて彼に曰けるは爾われに何を爲んと欲ふや瞽者いひけるは主よ見なんことを欲ふ

可十、五一、路十八四一、

瞽者高く呼はり「ダビデの裔イエスよ我を恤れみ給へ」と、此聲主の耳に達し主は其求むるところのものを知り之を容さんとせり、然れども之をなすの前に當りて問て曰けるは「爾我に何を爲れんと欲ふや」と唯恤を求むる普通の祈禱のみならず、其欲するところのものを明らかに其口より聞んことを要め之を告ぐるに至るまで癒したまはざりき今日と雖ども同じ問を受け之に答ふるに至るまで要むる

輔助を得る祈願人多し、我儕の祈禱は主の恤を一般に祈るにあらずして定まりたる願を明らかに訴へざるべからずこれ主の愛心が我儕の號叫を知ざるに非ず又聞に躊躇せるに非ず只我儕の爲に其を欲みたまふなり、如此定まりたる祈禱は我儕の欲乏ところを尚よく知るべきを敎へ最も乏しきものを見るが爲に時間熟考自省を要して我儕が祈禱に熱心なる能く其に堪るやを試み我儕の祈願は神の言に從へるや又求むるものは必ず得ると信ずるやを考へしめ格別の答を待つて其來る時に之を記すに至らしむ

試に我儕の祈禱は多く普通にして定まりたる目的なく或ものは恤を求むるも如何なる恤を要するやを知るを好まず、或ものは罪惡より救はるゝを願ふも罪の名を擧げて其

より救ひ出されんことを祈らず又或ものは其周圍のものゝ爲に神の恩惠を乞ひ聖靈の其地又は世界に下らんことを祈るも尙答を見るの働き場を有ず、主は總て此等の人々に曰ひけるは汝の眞に欲ふ所のもの我に爲れんと欲することろのものは何そやと、何れのキリスト信者も唯限ある力を有つものなれば己の働き得る格別の場所を有つべきが如く、祈禱に於ても定まりたる願を奉げざるべからず、各自己の家族朋友隣人のあるなれば此等の一人或は數人を名指して主に祈らば自の信仰を養ひ神と親しく交はるに至るべし、此の如き定まりたる願をなし答を受るに由りて我儕の一般の祈禱も實効ある信仰ある願となるなり

我儕は歐洲文明國がマジュバに於て熟練なる兵士のツラ

ンスバール、ボーアの爲に破られたるを驚きしを知る、何によりて彼等其を破りしや、蓋し歐洲の兵士は皆其敵軍を亂射して一砲毎に其殊別の目的を求めず發せり、ボーア人は之れに反して其平生銃獵に於て習熟したる腕を以て一發毎に其的を定たり、此の如き發砲は靈界に於ても勝を制す我儕が殊別の目的を以て祈らずして一般に數多のことを求めて其答を待ざる間は其的に達する甚た難し然れども自ら主の前にひれ伏して眞に吾か願ふところは何ぞや、必ず得るとの信仰を以て願ひ居るや父の旨に任すの決心ありや神と己の間に答を得るは必然のことなるやとの問を以て己を顧みれば神の答を受くる祈禱を學ぶを得己の眞に望むところのものを知るを得べし

主の此く問を發するは多くの理由ありと雖も其一は異邦人の如く重複語を戒めしなり、我儕屢數多の願望を非常の熱心を以て祈るを知る、されど救主は疑なく此く答へて曰はん「爾我に何を爲れんと欲ふや」と若し我異邦にありて父、の業を勤めんに我必らず二種の書簡を送らん、即ち一は家族の安否を問ひ愛情を告るなり、一は我か要する用事を語らん、或は二つながら一の封皮の中にあるべしと雖も應答は必らす我か記すところ如何に由るべし、家族の有樣を記せるには必しも答を要せず、然れども用事の爲に送れるは其返信の來るを首を擧げて待べし、神に對して我儕の願ふ所も亦此の如くならざるべからす、我儕の乏しき處と罪と愛と信仰を言ひ顯はすに於て我儕の答を待つところのも

のを明らかに告さるべからす而して天父の喜びたまふところのことは必ず答を見るを得べし

主の言の中には尙他の敎を含む、彼は爾何を望むやと曰ずして、爾何を欲ふ(意を定めて)やと問り、人々屢或物を望むと雖も意を定めて欲はず、我或物品を得んと望む價高きを以て果さず、我之を得んと望むと雖も意を定めて欲はず、懶惰の人は富んことを望む、されども之を欲はず、多くの人は救はれんことを望むも意を決して欲はざる故に滅ぶる意識は全心全命を支配す、若し我己が力を以て得能ふものを欲はゞ之を得るに至るまで已まざるなり、故にイエスの爾何を欲ふやと問ふは彼我儕の望む所果して如何なる祭物を出すも尙之を得んと欲するなるかを試るなり、汝は其求む

る所縦令久しく答を得ざるも神之を聞に至るまで眞に呼はるの決心を以て願ふや、あゝ應答未だ來らざるに暫時の間祈りて止まる數多の祈禱あるは甚だ憐むべきことに非ずや

此に一の問あり、曰く我儕己の願を神に明に告て而して我儕の心を確めずして神の旨に任すべきやと、これ大なる誤なり、イエスか其弟子等を練らんとする信仰の祈禱の要分は己の意を明に陳るのみならず又神の答あるまで之を求むるにあり、神の旨を知る能はざる時は神に托すの必要ありと雖も御言に從ひ約束を握り神の旨に叶ふを知りて求むる信仰は答の來るまで祈るべきなり、馬太はイエスの嘗て者に問し言を記して曰く(太九、廿八)「我この事を行し得ると

信ずるや」、馬可傳に「爾われに何を爲れんと欲ふや」、又兩書共に「爾の信仰爾を救へり」とあり、イエスサイロフイニシアンの婦に曰けるは「爾の信仰は大なり爾の求むる如く爾になるべし」と、夫れ信仰とは神の言に依りて願ひ我之を得ざるべからずと言ふにあり、眞に信ずるとは堅く欲ふの意なり然れとも此の如き意は我儕の神に依賴することゝ彼に從ふことゝに反せざるや、決して然らず、寧神を榮むる眞實の服從なり、神の子天父より欲する所のものを願ふ自由と力を受るは其意を全く天父に任する時にありと雖も一度神の言と靈によりて天父の旨を解る時神の業の爲に其旨のならんことを欲ふは神の喜ひ給ふ所なり、意識は神が人の靈魂に與へし最高の恩賜にして神の恩寵は神の象に形ら

れて作られたる此意識を充分に發達せしめんために諸のものに勝りて之を聖む、人の子其父の利益の爲にのみ生活せば父の業を任せらるゝが如く神は其子に「爾何を欲ふや」と語りたまふ、神の旨を解に難を恐れ又其旨を知るも信仰によりて求むることを忌て謙遜の形容を以て決心を顯さいるは心靈上の怠慢なり、眞實の謙遜は神の旨に叶ふ所のものを知を求め「爾の欲する所を求めよ、然ば得べし」との約束の成就を大膽に願ふ所の堅固なる信仰に伴ふものなり

主よ祈ることを敎へたまへ、

主イエスよ、爾と我との間に祈禱に就て、何の疑念も發せざるやう我全心全力を盡して祈ることを敎へたまへ、我祈禱の天に記さるゝ如く地に於ても之を記し其答の來る時之

に附記すを得るほど我欲ふところのものを知しめよ、聖靈が我心中にありて爾の約束せしものは必ず來ると示したまふに至るまで爾の言を信ずることを明白ならしめよ、主よ、實効ある祈禱の働を爲すがために我意を全く新にし、強くし聖め給へ

榮光の主よ、爾は我儕に「爾我に何を爲れんと欲ふや」と語れり、我儕の願ふところは何にても爲んと約するほどの驚くべき爾の慈愛を顯はし給はんことを求む、神の子よ、我其を解る能はず、然れとも唯汝の我儕を全く自の爲に贖ひ爾の忠實なる僕なりとの心を抱かんことを要め給ふを信ず、主よ、爾の靈が我全生を支配し給ふ力とならんが爲に我意を爾に任す、聖靈我心を充し爾の約束の眞理に導き「爾の信仰

は大なり、爾の欲ふ如く爾に成べし」と語り給ふ爾の聲を聞に至る強き祈禱をなさしめよ、アーメン

第十一課　受るところの信仰

ものは必ず得べしと信せば必ず得べし

是故に我なんぢらに告ん凡祈禱の時其求ふ所の

可十一、廿四

大なる哉此約束、神聖なる哉此約束、我儕神の愛と其力が我儕の爲になさんとする所の大なるを見て心を廣し之を信ずるにあらずして反て己を狹くし自ら安全と考ふる註解を百方力を盡して此約束に加へんとず、信仰は單に神の言を知り理論より得たる結果にあらず、神が爲んと言ひ給へる聲を聞きし耳、は其言の如く爲るを見るの目なり、信仰あ

る所には答來らざらんと欲するも得べからず、もし我儕神が祈禱の時「必ず得べしと信ぜよ」と命じたる語を守らば神「必ず得べしと」の約束を成就し給ふべしソロモンの祈禱に於ての「イエスの神エホバは讃べき哉、エホバ其口を以て吾父、ダビデに言ひ其手を以て之を成遂たまへり」(歴代史畧下六、四)とは神の契約に堅きを讃る凡ての祈禱の眞髄なり、我儕此精神を以てイエスの言語を聞ば各言皆貴き教あるを悟らん

「凡て求ふ所のもの」此初の言を見て人間の智識は直に疑を起し尋て曰はん、これ文字の如き意には非さるべしと、然れども若し其問の如くならば何ぞ主は「凡て何事にても」(英譯には其意を含む)と最も強く言ひ放ちたりしや、又此く語れるは唯一

度のみにあらず、彼は「爾信せば信ずるものに爲し能はざるなし」「爾信あらば何事かならざらん」と言はざりしや、信仰は神の言により熟したる信者の心中に働き給ふ聖靈の果にして信仰ありて祈禱の答を受けさるものなし、「凡そ祈禱の時信じて願はゝ必ず得べし」

人間の道理は此處に「神の旨に從はゞ」或は「適當の願ならば」などの種々の言句を挾みて其力を弱めんとす、我濟主の言を此の如く待遇ことなからんやう慎むべし、彼の約束は文字上に顯るゝまゝにして、イエスが「凡そ何事にても」との言を繰返せしは信仰の力の大なることを顯はし信者と己が力を同ゆせんとを欲し父が信するものゝ心に能力を與ふるを敎へんが爲なり、此「凡そ何事にても」との語により信仰は其の糧を得其の力を得、我濟此の意味を弱めばこれ信仰を弱むるなり、「凡そ何事にても」とは少しも拘束せらるゝ所なし、唯信仰の如何によりて影響するのみ、我濟信するに當りて先つ神の旨を知らざるべからす、信仰は神の言と聖靈の導に任せたる靈魂の働にして一度信せば何事にても成ざるなく神は「凡そ何事にても」との言を人間の考がふるものと均しく思ふを禁ぜり、我濟之れを其の儘に受て信仰の量とし望とせば我濟の心中に多くの果實を結ぶに至るべし

「凡そ祈禱の時」凡そ如何なる事にても神に求むるを得受るを得るは祈禱の時にして信仰は祈禱の結果なり、一方より見れば祈禱を爲すの前に信仰なくんばあらすと雖も又信

仰は祈禱により生長するものなり、最初甚だ高くして達すべからざる如く見ゆるものも救主の前にありて主と親しく交はるとき信仰によりて之を握るに至る、祈禱により我儕神の聖旨の光明に照されて眞に神の榮光の爲主イエスの名を以て求め居るや否やを試みられ、公正精神を以て求め居るやを知んが爲靈の導を待ち又信仰の乏しきを知りて「我信ず」と叫び耐忍を以て其信を顯はすに至る、故に祈禱を怠り躊躇するものは答を受るに適ふ信仰を有ざるにより決して信ずるを得ざるべし、之に反して祈禱を勉むるものは神の御坐にある信仰の靈を受るを得べし

「必ず得べしと信ぜよ」我儕が信ずる所のものは受る所のものなることと明にして、天父の最も善きものを與るを知るが

故に願はざるものを與ふべしと救主は言はざりき信仰ありて命せば山尙海に移るべし、我儕神に祈りて大に平安を感ずるはこれ神に任する祈禱にして其御旨を知る能はざるとき父の善と見給ふまゝに任すの類なり、イエスの語れる信仰の祈禱は大に之と異にして稍高尙なるものなり、我儕主の業を勤むるにより或は此世より離るゝにより神が何事にても求ふ所のものは必ず成んとの御言を全くしたまふべしと信ずるは最も父を榮むるものなるを悟り、靈により示されたる約束の上に堅く立ば必ず求ふ所のものを受くるを得ん、馬可傳十一章廿一節に於て主は明白に誰にても其心に疑ふことなく其いふところの言は必ず成べしと信せば其言の如く成るべし」と言へり、これ信仰の祈禱

の勝たるところなり

「必ず得べしと信ぜば」との言は甚だ大切なるものにして其意は屢誤解せらる曰く汝等の祈る時に必ず得べしと信ぜよとされば信したるものを見經驗上之を有つに至るは後の事にして先づ見ざるに當りて已に天に於て與へられたるを信ぜざるべからず祈禱の答を受るはイエス又は靈のものを受ると同一にしてもし我罪の赦を願ふときはイエスの天にありて仲保たまふを信ずるなり、又殊別の賜を祈るとき必ず得ると信じて已に我ものなるを感謝するなり

「神が我儕の求むるとき聞ば又求むる所のものを得るを知るなり」

「必ず得べし」之れ即ち已に信仰により天に於て與へられた

る恩賜を實際に見ることを言ふ、此處に已に得たりと信じたる後尚祈禱を要するやとの問あり、我儕信仰によりて得たりと信ずる後神を讃めて其已に受たるを顯はさば最早祈るの必要なきものあるべし、又信仰の強めらるゝ爲耐忍んで祈るべき場合もあるべし、唯神のみ我儕が恩惠を受るに足るほど周圍にあるものゝ備はれる時を知りたまふ、エリヤは必ず雨の來るを知り神又之を約したまひしと雖も尚七度求めたり、これ儀文にもあらず外見にもあらず其心中に燃たる烈火の然らしめしなり、約束を繼は信仰と忍耐にあり、信仰は得たりと言ひ、忍耐は天に於て與へられたる賜の地上にあらはるゝまで祈りて忍ぶ「必ず得べし」と信ぜば必ず得べし」

終に此言を發せし者はイエスなるを記臆すべし、我儕天開けて御位に坐したまふ父、か我儕の求る凡ての物を與へんとなし給ふを見て、深く自己の權を重んぜず、達すべきの限の中にありて、尙恐怖の念多きを恥づ、此約束を持來りしものはイエスなりとの一事は大に我儕の望を强くす、彼は自ら地上に在せし時信仰と祈禱の生涯を送れり、彼は弟子等か無花果の枯たるを驚きたる時己の如き生涯を彼等にもなさしめんとして曰けるは只無花果のみならず爾等此山に命ずるも尙從ふべしと、彼は我儕の生命にして彼は此世に在せし時の如く今日も變らず、彼は信仰の先導、又之を成全するものなり、且つ信仰の靈を注げば此の如き信仰は我儕のものにあらずと言ふ勿れ、父の旨と愛と御言に己を任せたる神の子は凡て之を有つべきなり、愛する信者よ此言は神の子、我儕の兄弟なるイエスより來れることを忘れず勇みて讃べき哉、主よ我儕爾の言を信ずと言はんことを望む、

主よ祈ることを敎へたまへ

讃べき哉主、爾は父の愛と其愛が與へんとする凡ての寶を顯はさんが爲父より來たまへり、主よ、爾は我儕が心の小さきを恥るほどに大なる祈禱の約束を與へ給へり、其約束は實に廣大なり、主よ、「凡て祈禱の時其求ふところのものは必ず得べしと信せば必ず得べし」との此貴き御言を用ゆるやう我儕を敎へ給はんことを望む、讃べき主よ、我儕の信仰の强固なるは爾に基くにあり、爾の働きによりて我儕全く罪惡

の力より免れたり、爾の愛は常に我儕を爾の榮光と能力の中に入んことを欲したまふ、爾の靈は我儕を完全なる信仰の生涯に高めんとし給ふ、我儕今爾の敎へにより信仰の祈禱をなすべきを學べり、爾は我儕を「求ふものは必ず得べし」と信するに至らしめ給はん、主よ、爾を愛し爾と偕に住みて我祈禱神の前に昇り、我靈魂自ら聞るゝを信ずるに至るやう我を敎へよ、アーメン

第十二課　祈禱の秘訣

イエス答へて彼等に曰へるは神を信ぜよ誠に我なんぢに告ん誰にても其心に疑ふことなく其いふ所の言は必ず成べしと信じ此山に移りて海に入といはゞ其言の如く成べし是故に我

なんぢらに告ん凡そ祈禱の時その求ふ所のものは必ず得べしと信ぜば必ず得べし　可十一、廿二より廿四

昨日の學課なる祈禱の約束は聖書中に驚くべきものゝ一にして多くの人々の心に如何にして求ふ所のものは必ず得るとの信仰を得べきやとの問起れるなるべし、これ今日主が答へんとなしたまふ疑問なり、彼は其弟子等に其驚くべき祈禱の約束を與ふるに當り此の如き信仰の發生する本を示して「神を信ぜよ」と語りたまへり、此言は祈禱の約束を信ぜよとの言に先つものなり、約束を信ずるは約束せしものを信するに因り人を信ずるより其言を信ずるに至る神が我儕の求ふところを與へ給ふを信ずるに至るは神と

交り神と偕に住むにあるなり、神を信ずることゝ其約束を信ずることゝの關係は信仰の眞意を了解することにより明かなるべし、信仰は屢己の前に供へられたるものを取るところの手又は口に喩へらる、然れとも我儕は之を約束せる言を聞の耳、供へられたるものを見るの目として解することも甚だ必要なり、余は約束する人に聞く其人の聲は余に力を與ふ余は其人を見る其人の容貌は余の疑を解ざるなり、約束の價値は約束せる人により約束を信ずるは約束せし人を知るにあり

イエスが其驚くべき約束を與ふる前に「神を信ぜよ」と言ひ給ひしは此がためなり、其意は我儕の目を開きて活る神見るべからざる神を見よとのことあり、神を信ずるとは我濟

が全身を捧げて神の感化に沐浴するに至るまで神を見ることにして信仰は神が己を顯し其行爲を示したまふところの目なり、余が見るところのものは我にありて生るが如く信仰によりて神我にありて生く又信仰は神の聲を聞の耳にして神の語りたまふは聖靈によるキリストは神の語りたまふ御言にして聖靈は生る聲なり天より出る穩れたる聲はイエスの教へたるが如く我儕が何を爲すべきや何を言ふべきやを教へさるべからす、神に聞の耳、は神を望める信仰にして信仰あるものは神の御聲を聞を得べし神の言は唯書籍にあらはるのみならず神の口より出る所のものにして靈なり眞なり生命なり能力なり思想外なる活る經驗を與ふるものなり、此開きたる耳即ち信仰によりて我儕

の靈魂神の生命と能力の中に息ふ余が聞ところの言我うちにありて働くが如く信仰によりて神は心の中に住みて働きたまふなり

今信仰目耳の如く充分活潑にあらば神の恩惠を受る手口の如く其力を働かすを得べし、神の恩惠を受るは神を覺るによる、此故にイエス神が信仰の祈禱に答へたまふ約束を告る前に「神を信ぜよ」と言へるなり、信仰は神に己を全く任すことなり、信仰は友となることなり、神に聞き神を見て其約束を信ずるの難からざるに至るは神と交り友となるにあり、約束を信ずるは約束せし人を信ずるの結果にして信仰の祈禱は信仰の生涯より發す、實効ある祈禱を爲ず信仰は神より來れるものにして一朝にして得るものにあらす

神と交ることにより其性を形作に至れるなり、試に彼と親しく交はりて能く彼を知るところのものは神と住める所の神の子の願を神が成したまふを信ずること難にあらざるなり、神の子等の中多くのもの信仰の生涯と信仰の祈禱との關係を知ざるは祈禱の經驗の少きによる、彼等は神より答を得んと欲し信仰を以て其約束を握ると雖も答未だ來らざるに當りて其望を失ふ、これ約束は眞實なりと雖も信仰によりて持つところの力甚た少きにあり、請ふイエスの教を聞け曰く活る神を信ぜよと、信仰をして約束のものよりも多く神を望ましめよ、信仰を活潑になすものは神の愛、神の能力なり、人あり醫師に尋ねて其腕其手を強くせんとす、醫師之に答ふるに其全躰を強めよと、此の如く弱き信

仰を癒すは只神と交はりて其心靈上の生命を活しむるにあり、神を信じ神其心に在りたまはゞ約束を信ずるは易かるべし、神を信ずることを知るところのものは約束を信ずるに何の難きことか之れあらん

試に古代の聖徒を見よ、彼等の信仰の格別に現はるゝは神の格別の默示によれり、アブラハムを見よ、「主の言アブラハムに來れりアブラハム恐るゝ勿れ我は爾の楯なり神彼を廣きところに出し曰たまはく……アブラハム其面を伏たり神彼に語りて曰ひ給はく見よ我が契約汝にあり」此等の信仰ある人々は神を知たるが故に唯神の約束を信ずるの外なにをも爲す能はざりき、約束を受るところのものは主の前に歩みて主の語りたまふ時伏して聞くところの

人なり、我儕神の約束を聖書に於て有つと雖も我儕と語りたまふに非らざれば心靈の力全からざるなり、而して神の語り給ふ人は彼と偕に住み歩むところのものなり、故に神を信ぜざるべからず、願くは神が自己を顯はして我儕を感化したまはんが爲信仰が凡ての目と爲り耳と爲らんことを神は其旨の喜ぶところを成んと待ち給ふ、活る全能の神なりとの信仰を得るは祈禱によりて受る重なる恩惠の一なるを思はんことを欣びて其恩惠を與へ自をさへ與へんとなし給ふ愛の神を見んことを、かく信仰を以て神を拜するにより「求ふ所のものは必ず得べしと信ぜよ」との命令に從ひ其約束を信ずる力を得べし、實に信仰によりて神を己のものとする所の人は又其約束を己のものとするは必せ

り

今日イエスの教ゆる所のものは實に貴き訓課なり、我濟は神の賜を得んと欲す神は第一に自己を與へんとなし給ふ我儕は祈禱を天より賜を受る力としイエスを我儕が神に近くの道として考ふ、我儕は戸の前に立て叫ばんと欲する

もイエスは内に入りて我儕が神の友神の子等たることを實驗するを望み給ふ、我儕此教訓を學び信仰の小なることを悟りて活る神を深く信ずるに至り彼に我儕を全く任すやう勤めざるべからす、何人にても其心中神を充すものは信仰の祈禱に力を有つ神を信ずる信仰は約束の信仰を生み約束の信仰は其答あるを信ずる信仰を生む

然れば神の子は如何に繁忙なりとも如何なる事情ありとも

も祈禱を爲すには是非々々時を取るべきなり、神の前に伏し、神の顯れたまふまで待つ時を取り聖き恐敬を以て神を拜し其信仰を顯すべきなり而して神己を顯はし我儕の心を滿したまはゞ信仰の祈禱を捧ぐるを得べし、これ即ち神を信ずるの結果ならんや

主よ祈ることを教へたまへ

あゝ我神よ、我れ爾を信ず、爾を父、としては愛と權能に無限を信じ子としては我救主我生命なるを信じ聖靈としては安慰者導者力なるを信ず、三一の神よ、我爾を信ず、我爾が我にあるを知り又約せしところのものを成したまふを知る

主イエスよ、此信を增せよ、我が全く神を信ずるに至るまで聖き御前に跪き拜するを得せしめよ、神と世と我とに於て

其旨を成んが爲全能の力を以て働き給ふ生命の源として見し給へ、神が我儕の願望を成んと欲したまふ其愛を現したまへ、信仰によりてのみ神は我中に住みたまふところのことを我心に充しめよ、主イエスよ助け給へ、常に神を信ぜしめ給へ

讃べき哉主よ、我儕の全生神を信ずるに非ざれば如何にして爾の國を我儕の働によりて來らしむべき如何にして爾の教會が爾を榮むべき

讃べき哉主よ、「神を信ぜよ」との御言を我儕の靈魂の底に轍せしめよ、アーメン

第拾三課　不信仰の治療

其時弟子ひそかにイエスに來り曰けるは我儕

これを逐出すこと能はざりしは何故ぞイエス彼等に曰けるは爾曹信なきが故なり我まことに爾曹に告んもし芥種の如き信あらば此山に此處より彼處に移れと命とも必ず移らん又なんぢに能ざることは無るべし然ど此類は祈禱と斷食に非ざれば出ることなし

太十七、十九より廿一

イエス其弟子等の癒す能はざりし癲癇より鬼を逐出し給へる時彼等己等の癒す能はざりし原由を問へり、嘗て弟子等は彼より惡鬼を逐出し疾病を癒す權威を與へられ屢病る者を癒し又惡鬼を逐出して欣喜しがイエスの暫時山に登り居り給ふ間に此病者を癒すに於て全く失敗を取れり

キリストが惡鬼を逐出し給へることにより此病者は癒さる能はざるものに非ざること明白にして又神の御旨に叶ざりしものに非ざることを知るなり、又「我儕これを逐出すこと能はざりしは何故ぞ」との問によりて彼等も力を盡して癒さんとせしこと現れ必ずイエスの名を以て出よと命ぜしものならん、然るに彼等は多くの群集の中にて大に恥を受るに至れり、「我濟之を逐出すこと能はざりしは何故ぞ」キリストの答は簡明にして適切なり曰く「爾曹信なきが故あり」とキリストの成功と弟子等の失敗は決して彼の弟子等に勝る特別の力あるに由に非ず、唯一個の力即ち信仰の欠ると否とにあり、信仰は神の國に於ても暗黑の國に於ても力あるものにして神の賜は信仰によりてのみ人間に與へらるゝなり、信仰は未だ見ざるものを眞實とすることにして人間の心の全く神の意に從ふをいふ、彼等はイエスより受たる權威を永く保つ能はざりし、此權威は只活る信仰によりてのみ受け保つを得るなり、もし彼等の信仰必ず勝を得たるなるべし、「爾曹信なきが故なり」とは何時にても主が其教會の衰微と失敗を解説したまふ言なり

然れども又此信仰の欲る所以なくんば我儕是迄惡鬼を逐出すを得しが今弟子等は「何故我儕信ずる能はざりしや」と問を得たるべし、イエスは此問の起らざる前に「此類は祈禱と斷食に非ざれば出ることなし」と語り給へり、信仰は最も單一のものにして又最も高尚なる心靈上の生活の働なり其心靈上の生活には我儕の靈全く神の靈に從ひ其感化を

受けて強くせらる、此信仰は心靈上の生活の有樣に全く依るものにして心靈上の生活に何の障碍もなく聖靈の支配の下にあるとき信仰其大なる行爲をなし得るあり、故に「此類は祈禱と斷食とに非ざれば出ることなし」と附加へ給へり、此惡鬼の如き剛なるものを服するには祈禱と斷食即ち神に近く交り世より離れ生活せる人に非ざれば能はず、イエス今祈禱に關れる二の敎訓を敎へたり、即ち信仰は祈禱の生活なかるべからず、其によりて信仰發生するなり、祈禱は斷食なかるべからず、其によりて祈禱完全なる發達に至るなり

信仰の發生は祈禱の生活なかるべからす、心靈上の生活に

は一のものにして共に原因たり結果たるものなり、信仰は即ちこれなり、信仰なくんば祈禱あるべからす、故に信仰の或る分量は祈禱の前にありと雖も又祈禱は信仰を增の道にして絕ず祈禱を爲されは信仰の高度に至る能はず、これイエスの此處に於て敎ゆるものにして信仰を發生せしむるに祈禱ほど必要のものは非ざるなり、或る敎會は「爾の信仰大になれり」と言はれ、又イエスは天國の法則なる「爾の信ずる如く爾になるべし」との言を發せり、是によりて我儕は諸の人の信仰の度均しからず同一の人までも常に信仰の度同じからず又信仰の量は其力の量と神より來る恩惠の量を定むるものなるを知るなり、我儕信仰の發生するところを知んと欲せばイエスは神の御位を指示し給ふ、信仰の增加はるは祈禱により既に有る信仰を働かしめ活る神と

交はるにあり、信仰は唯神によりて活るなり

神の己を服はしめ彼を信じ彼を知るところの官能の強くなるは彼を拜し静に彼を望にあり、神の言を信じ之を受る力の生ずるは聖書より神の言を取り神に其尊き御聲を以て語りたまはんことを願ふにあり、神の語り給ふ言を受け之を信ずる信仰の固くなるは活る神に賴倚りて祈るにあり、數多のキリスト教徒は常に聞くところの絶へず祈れとの言を解らず、又神と交る必要を感ぜずと雖も主の言によりて強き信仰の人は祈るところの人なるを知る

此く考へ來れば我儕はイエスが「爾曹求ふ所のものの必ず得べし」と告げ給ふ前に「神を信ぜよ」と語りし言を思ひ起すに至る、我濟の信仰は深く活る神に根さ

いるべからず、神に根してこそ山を動かし鬼を逐出を得るなり爾曹信あらば爾曹に爲し能はざることなし

若し我儕が惡鬼を逐出し山岳を移すべき世に於て神のなさしめ給ふ業に全身を捧げば多くの信仰と多くの祈禱の必要を感ずるに至るべし、キリスト、イエスは我儕の生命又信仰を強くし單純になすものは我儕にあるキリストの生命にして信仰の靈を增加はるは自己を殺し神と新しく交はる多くの祈禱にあり、信仰の充分なる發生には祈禱を要するなり

祈禱の充分なる發達には斷食なかるべからず、是第二の教課にして祈禱は見るべからざるものを握るの手斷食は見ゆべきものを捨るの手なり、感覺の世界に於て人には食物

の必要と之を樂しむよりなほ密に關るものあらざるなり樂園にて人類の誘惑に陷り墮落せしは、食ふに善き菓物の爲、又イエスの飢し時試られしは石を以てパンにせよとのことにして之に打勝たるは斷食による身躰は聖靈の殿たらん爲に贖はれたり、聖書に曰く食ふにも飲にも神の榮光を顯すべし、多くのキリスト教徒未だ食ふにも神の榮光の爲にせよとの言を實際に行はざるは嘆ずべきなり、斷食と祈禱に關せるイエスの言に顯はれたる第一の意は、多くの祈禱をなす心の起り其に勢力を與ふるものは唯自己を殺せる制慾の生活にあることなり

然れども尚文字上の意味あり、悲痛と憂苦ある時は食ふこと能はず、喜樂の滿るときは飲食を以て其祝をなす、食ふこ

とは正しきことにして罪にあらずと雖も心中の願望熱し來りて食慾が心靈の力を障碍るを感じて之を制するの必要を見るの場合あるべし、我儕は五感に支配さるゝ動物にして心靈上のことゝ雖も具躰によりて顯はさるゝ時は大に解し易きを覺ゆ、斷食は神の國の爲に我儕が求むる所のものを得んが爲には何物にても牲となさんと求むる決心を表し强くするに益あり、又イエスの犧牲と斷食を受納たまひし神はキリストと其王國の爲に諸の物を捧げんとする靈魂に靈の力を以て報ひたまふべし、尚他の教訓あり、祈禱は神と見るべからざるものを探り取ることにして斷食は暫時のものの見るべきものなる諸の物を捨ることなり、一般のキリスト教徒は明白に禁ぜられざれども罪なる所の

ものを正しきものとして此世界に於て得らるべきだけ其快樂を取らんと欲すれども眞實に聖別られたる靈魂は戰爭に要する所のものゝみを携ふる兵士の如くありて凡ての重きものを捨て罪を發すべきものを除き此世に擊はるを恐れて主と其の用の爲に格別に選れたる「ナザレ」人の如き生活を爲んことを欲ふ、正しき所の者をさへ此く意より離るゝものに非ざれは祈禱に力を得ざるべし、此類は祈禱と斷食にあらされは出ることなし

主に祈を敎へられんことを願ふたるイエスの弟子等よ今來りて其敎訓を受よ、祈禱は鬼をさへ逐出す强固き信仰の路あることをイエス敎へ給へり、爾信あらば信ずるものに成し能はざるなし」との約束によりて力を得る祈禱を多く

なすべし、報は價なしに受くべきかイエスが開ける路にて彼に從はん爲凡ての物を捨ざるや、若し必要の場合に遇はゞ斷食せざらんや、我儕は世を救ふ神の業に用らるゝ信仰の人とならん爲に祈禱を以て神と交り我儕の大なる事業を妨ぐるものを捨ざらんや

主よ祈ることを敎へたまへ

おゝ主イエスよ、我儕の不信仰を爾は絶ず誹難し給へり、我儕の天と爾の約束を信ずるの難き此恐るべき我儕の性質爾の目に甚だ異しかるべし、主よ「爾曹信なきが故なり」との御言を我儕の心裡に銘せしめよ

讃べき哉主よ、信仰を學び且つ得べき所即ち爾と父に生る交際を成し得べき處は祈禱と斷食なるを敎へよ

おゝ救主よ、爾は信仰の先導にして之を完全する者なり、聖靈によりて爾を我儕に住しむべきものなるを敎へよ、主よ恩寵を祈る我儕の祈禱今に至るまで多く聞れざりしは我儕其原因を知る、我儕は爾より與へられんことを唯己の力によりて求めたり、聖きイエスよ、我儕の信仰の誤らざる爲に聖靈によりて我儕の中に住みたまふ爾の生命の秘義を敎へよ、我儕の信仰は仲保の役を勤めしめんとして爾の與へたまふ祈禱の生活の一部分なるを顯はし、又祈禱と斷食によりて我儕が何事にても爲し能はざるなき信仰に生長し得るやう敎へ給へ、アーメン

第拾四課　祈禱と愛

又なんぢら立て祈禱する時もし人を憾むことあらば之を免せ蓋天に在す爾曹の父、に爾曹も亦その過を免されん爲なり　可十一、廿五

此等の言は「凡そ祈禱の時その求ふ所のものは必ず得べしと信ぜば必ず得べし」との大なる祈禱の約束に次で來れり此大なる約束の前に「神を信ぜよ」との御言により祈禱の時我儕と神との關係に於て一點の暗雲も有る可らざることを解り得たり今此等の言を讀みて唯に神との關係に於てのみならず他人との間に於ても亦潔白なるべきを知る神を愛することと人を愛することは離るべきものに非ずして我儕の祈禱に於て若し神に對して正しからざるか又は人に對して善からざる時は其祈禱何の功もあらざるなり故に信仰と愛とは共に大切なるものなり

此事はイエスの屢教へ給ひし所なり山上の垂訓に於て(太五、廿三と廿四)第六の誡に付き語り給へる時若し兄弟と善からざる時は父に受納らるゝ能はずと弟子等に告げ「爾曹もし禮物を携へて壇に往たる時かしこにて兄弟に恨らることあるを懷起さばその禮物を壇の前に留まつ往て爾の兄弟と和ぎ後來りて爾の禮物を獻げよ」と、其後神に祈ることを教へ給へる時「我儕に罪を犯す者を我ゆるす如く我儕の罪をも免し給へ」と教へて「もし人の罪を免さずば爾曹の父も爾曹の罪を免し給はざるべし」との語を以て終れり又隣なき僕の譬の終に爾曹心より其兄弟を赦さずは天の父、も亦その如くなさん」との言を發し給へり今も枯たる無花果の傍に坐してイエスは何の接續もあらざるに突然「な

んぢら立て祈禱する時もし人を憾むこと有らば之を免せ蓋天に在す爾曹の父に爾曹も亦過を免されん爲なり」と教へ給へりこれ主がナザレに住し時或は其後の生涯に於ても祈禱を爲す人と雖も多くの人を愛せよとの誡を守らず又其祈禱の力なきは此誡を守らざるに因るを見て我愛する所のものを愛するとの自覺を有する人の祈禱ほど力あるものなきことを我儕に教へんと爲給ふが如し

第一に此處に於て學ぶべきは他人を赦すの性質なり我儕は「我儕に罪を犯すものを我赦す如く我儕の罪をも赦し給へ」と祈る、聖書に曰く「神キリストによりて爾を赦し給へる如く互に赦すべし」と神が我儕を全く赦し給ふことは我儕の他人を赦すべき量度たるなり凡ての祈禱は神が我儕を

赦し給へる恩惠によりて發するを得若し神我儕の罪をみ見て論じ給はゞ如何で我儕の祈禱を爲を得んや神既に罪を赦し給へばこそ我儕其恩惠と祝福を乞ふを得我儕の祈禱聞かるゝを得なり

然れは祈禱の答ある所以は神の我儕を赦し給ふ愛あれば

なり、此思想我儕の心中に生せば我儕信仰の祈禱を爲を得

愛の生涯を渡るを得べし神が我儕に其愛を顯し我儕を赦

ふ性質は又我儕の性質たるなり若し我儕他より太に傷、け

られ不義を受ることあらは第一に神の如き性質を持んと

とを欲してそれに報ひんと求むる心を制せざるべからす

平生些少のことに鋭き言輕しき行を爲ざるやう注意して

「キリストの赦す如く爾曹も赦せ」との命令を堅く守らざる

べからす死の業より我儕を潔むる血は亦我儕より我儕を

潔め我儕の心に流るゝ愛は罪を赦すの愛なり我儕に他人

を赦すの愛あらばこれ神の我儕を赦し給ふ愛の我儕の中

に存する證なり

第二に學ぶべきは祈禱によりて我儕が神と交はるの厚薄

は世に於ける我儕の日々の生活なりとのことなり多くの

キリスト教徒は祈る時に心の或る能力を發育せしめんと

することと屢にして生活は多くの切片より成立たるものに

非ざるを解ざるなり生活は全きものにして祈禱の時に發

する敬虔の念は平生の生活に持ち居る心の如何によりて

神に判かる我儕が如何なるものなるや何を願ひ居るやを

判別し給ふに神の標準は祈禱の時起り來る感情には非ら

ずして平生生活の情況なり神に近づき得るは人々と交る樣に依るものにして人に善らずんば神に善らざるなり唯己と他人との間に於て明白に心に挿むことある時のみならず若し己の思想愛の道に應はざれば祈るにも何の益あらざるなり然れは力ある祈禱の發するは神の旨と其愛に捧げたる生活より出るものにして神が我儕の祈禱を聞き給ふは其時の思にあらずして祈らざる時の有樣によるものなり

今に至るまで學びたることを集むれば下の如き考を生ず

人々と偕なるに我儕の生活に於て諸の者の基づく處は愛の一事なり罪を赦す靈は愛の靈にして神は愛なるが故に罪を赦せり我儕が此愛の中にある時のみ神の如く人を赦

すを得我儕兄弟を愛せば父を愛するの證を有ち我儕の祈願必ず聞かる（約一書四の廿、三の十八、廿一及廿三）我儕愛するに言と舌とを以て相愛することなく行と實を以てすべしこれによりて我儕心を主の前に安ずべし我儕が心みづから責ることなくば神に向つて憚る所なかるべし且つ我儕が凡て求むる所は彼より受く」我儕愛なくんば行も信仰も益なし信仰あるを證するものは愛にして神と交らしむるものも愛なり馬可傳十一章廿四節の「神を信ぜよ」との言の大切なるが如く「人を愛せよ」との言も亦甚だ大切なり、實効ある祈禱に必要なるものは我儕の上にある活る神と我儕の周圍にある人とに對して公明正大なることなり此の如き愛は人の爲に働らき其爲に祈るより發するもの

なり我儕は亡ぶる靈魂の爲に己を捧ずして唯キリストの業なりと自稱すること及び己が心靈の健全の爲に熱心なるより己を捧ぐるのみ然れば我儕の信仰弱く薄きは當然のことなり信じて祈り答を受るの秘訣は失ひしものを尋ぬる牧者なるイエスの愛を以て滅ぶるものを見るにあり眞に愛ある心を以てイエスの爲に之を救ふにありイエス罪の赦しを語り給へる時愛は其根なるを敎へ給へり又山上の敎訓に於て天に在す爾曹の父の憐の如く憐むべしとの言を以て祈禱の約束と敎訓とを結接たまひし如く此處に於ても然るを見るなり信仰の祈禱に必要なるは人を愛する生活なり

信仰の祈禱と信仰とを以て祈らんとする忠實なる勵ほど

人の心を自省せしむるものはあらずと言はれたり我儕は神のみ知り給ふ道理の故に我儕の祈禱を聞き給はざるなりとの思想を起して己を省るを怠るべからず、爾曹求めて得さるは妄に求むるが故なり」との神の言によりて我儕自ら顧みざるべからず、我儕の祈禱は神の旨に己を任せ人を愛する生活より生ずるものなるかと問さるべからず、愛のみ信仰の根を下して發育に適ふ地なり、其手を上げ其心天を見る時天父は常に此等のもの嘗て罪惡の方に赴しかを探り給ふ信仰の恩惠を受け得るは誠實なる順從と確固なる愛とにあり、凡ての祈禱を聞き給ふ愛を信ずる人は神の愛を己に住しめ神の愛の如く人を愛する平生の生活を爲す所の人なり御位の中に在ますものは羔なり祈禱の神に

納らるゝは堪へ忍ぶ愛にあり憐あるものは憐を受け柔和なるものは地を繼を得べし

主よ祈ることを敎へたまへ

讃べき哉父よ、爾は愛なり愛に住とところのゝみ爾と偕に住み爾と交るを得讃べき御子今日祈禱に於て爾と交るにも此事の眞實なるを敎へ給へり、おゝ我神よ愛の生活より信仰の祈禱の發せんが爲聖靈によりて注げる爾の愛を我周圍のものを愛する愛の泉とならしめよ

おゝ我父よ、人を愛する生活は爾の愛の中に生活する門なるを經驗することを聖靈によりて許容し給へ又我に罪を犯すものを日々我赦すことの喜樂の中に爾の我を赦し給へふところの力と命生なるを見せしめ給へ

主イエスよ、我讃べき師よ、人を赦し之を愛するを敎へよ、爾の我罪を赦し給ふことと及び我の人の罪を赦すことが天の眞の喜樂とならん爲爾の血を以て我罪を赦し給へ、我の人に對する如何により神との交際に差あることを顯して我家に我社會に於ての日々の生活は信仰の祈禱を修練する學校たるを敎へ給へ、アーメン

第十五課　共同祈禱の力

我亦爾曹に告んもし爾曹の中二人のもの地に於て心を合せ何事にても求めば天に在す吾父は彼等の爲に之を成たまふべし蓋わが名の爲に二三人の集れる處には我も其中に在ばなり

太十八、十九と廿

イエスの祈禱に就きて教へ給ひし重要なる學課に一は人に見らるゝ勿れ密なる室に入れ天父と獨あれとのことなり彼は此く語りて祈禱は人々が個々神と交ることとなるを教へ給へり而して今茲に唯密に祈るのみならず公衆の會合にても祈るべきものなるを教へて二三人心を合せて求むることとの格別なる約束を與へ給へり、樹木が其根を地に隱して其枝葉を日光に曝すが如く我儕の祈禱も密に神と交り又主の名によりて公衆に人々と偕に祈るべきなり

此道理は甚た見易きことなり人を結合せしむるものは我儕を神に結合せしむるものより眞實にして密なるものに非ず、恩寵は唯神との關係を新にするのみならず人との關係に於ても亦然り我儕は「我父、父よ」と呼ぶに止まらずして「我儕の父、父よ」と叫ぶを學ぶ一家の子供等互に別れて常に其父、に遇ふは甚だ情に適はざるなり我儕信者は唯一家の子等なるのみならず又一の躰たるなり、躰の肢躰と互に相依が如くキリスト信者が神の充分なる恩惠を受くるは共に心を合せて祈る時にあり、聖靈の其力を顯はし給ふは信者の一致と交際にあり、昔時神の靈榮光の御坐より降りしは百二十人のもの心を合せて一處に集り祈りたるによるなり人と偕に祈るに注意すべき個條は既に主の言に現れたり第一は心を合せて祈ることとなり、我儕他の人の願ふ一般のものに心を合せて求ふは言を待ずと雖も又格別の目的を以て心を合せざるべからず最も何の祈禱に於ても靈と眞を以て一致すべきなり此くして後我儕が神の旨に從ふて

求め居るや求ふ所のものは必ず得べしと信じて祈り居るやを問ふことの愈〳〵明白なるに至るべし

主の名の爲に集るは第二の注意すべきことなりイエスの名の祈禱に力あることは我儕後に學ぶべしと雖も主は此處に於て彼の名は信徒の集る中心彼等を結び合する繩にして恰も家が其中にある人々を容るゝが如きものなるを敎へ給ふ「主の名は强固き櫓にして正義も遁れ隱る」其名を信ずるもの此くある所以は神偕に在すによる弟子等の一致と相愛はイエスに取りて無限の引力なり「わが名の爲に二三人の集る處には我も其中に在ばなり」心を合せて祈る祈禱の力あるはイエス其愛する祈禱の弟子と偕に在すによるなり

注意すべき第三の個條は應答の確實なることなり「吾父は彼等の爲に之を成し給ふべし」祈禱會は宗敎上の交際を保つ爲又は我儕の德を建つる爲に益あるべしと雖もこれ我儕の主が祈禱會を要め給ひし所以に非ず其之を義め給ひしは祈禱に格別なる應答を受けしめん爲なり故に祈禱に答を認識ざる祈禱會は法外のものたるなり我儕の中誰にても殊別の願望ある時信仰の弱を感せば他人の輔助によりて强からんことを欲ふべし、イエスの名と彼の現在は信仰と愛と靈の一致の中に一層自由に働き應答愈〳〵確實に來るべし、眞正の祈禱會のありたる證跡は我儕の祈りたるものを受るにあり「我爾曹に告ん天に在す吾父、は彼等の爲に之を成給ふべし

心を合せて祈る祈禱の特權は大にして語る能はず其力は實に非常のものなり若し信者なる夫妻其心を合せ神の御前に出る時イエスの現在と其力を知らん爲に彼の名によりて偕に跪を思ひしならば若し二三人の朋友其志を一にして祈る時大なる力あるを信ぜしならば若し各の祈禱會がイエスが名により彼の在すを信じ答を望んで集しものなりとせば若各教會に於て心を共にし祈ることが教會を結びし重要なる目的の一なりとせば若し凡の教會にて始に聖靈充溢の中に次に榮光の形を以て神の王國幷に其の王自らの來りたまはんことを心を合せて絶へず神に叫びしならば其時如何なる恩寵の來るべきかを言ひ得るものは誰ぞ神の約束に應はせて神を證現さんと思を同ゆせしも

のこそ其人なり

我儕は使徒ポーロに於て心を合せて祈る祈禱に置ける信仰の大なるを見る彼羅馬人に「兄弟よ我儕の主イエス、クリストにより信仰の愛に繰りて爾曹に勸む願くは我と共に力を竭して我ために神に祈ることを爲よ」と(羅十五、卅)書けり、彼は不信者より拯かり且つ其働の實を結ばんとを願へり哥林多人に「爾曹も我儕の爲に祈りて相助く」と(哥後一、十一)云へりとれ彼等も祈禱の故賜はい恩寵を感謝するに至らん爲なり、以弗所人に「恆に各樣の禱告と祈求を以て靈によりて求め且諸の聖徒の爲にも祈り且侃々として言ひ得るやう我ためにも祈るべし」と求めたり彼は己の傳導の力と成功を唯彼等の祈禱によるとなせり又腓立比人に蓋と

のことの爾曹の祈禱とイエス、キリストの靈の助とに因て終に我救となるべきを知ればなり」と(腓一、十九)哥羅西人に は祈禱を怠る勿れと勤めて尙「われに道を傳ふる門を開き給はんことを我儕の爲めに祈るべし」と(西四、三)帖撒羅尼加人に「終に我これを言ふ兄弟よ爾曹われらの爲に主の道をして疾くひろまり榮を受ることと爾曹の中の如く爲しめよ又我儕をして邪なる惡人より救はるゝことを得せしめよ」と(撒後三、一)書き遣れり、ポーロは何處にても己は躰の一肢にして躰と共に動くべきを感し此等の敎會の祈禱により て得べからさる賜を得たりとなせるを見る實に敎會の祈禱は彼に取りて神の力と均しく神の國の働に於て一個の因數たりしなり

神の敎會が主の王國の來る爲神の僕と其言に神の力の現れん爲靈魂を救ふ神の榮の爲に夜晝祈禱の動作に從事せば誰か敎會が如何なる力を發して働に至るやを語るを得ん多數の敎會は其會員の集れるは唯相互に守り相互に立るのみと考へ神が其聖徒の祈禱によりて世界を治め祈禱によりて惡魔を征服し祈禱によりて敎會が天國の力を支配するを知らさるなり彼等はイエスの其約束を以て其名の爲に集る各集會が天の門かれの在す所たるべき爲其を聖別たまへしこと及ひ彼の力が彼等の願望を父の滿し給へしを經驗せることを記憶ざるなり

我儕は毎年初週キリスト敎國に行はるゝ一致の祈禱に付ては充分に神に感謝し能はざる程なり此幸なる一週は一

致の祈禱の力を信ずる我儕の信仰と我儕の結合の證として凡ての教會の要する諸の物を容る爲我儕の心を濶大にする脩練所として心を合せ堪へ忍んで求むる祈願の一助として言ふべからざる價値あるなり然れども格別に絶す心を合せて祈る小さき會合の刺衝物として其恩惠更に大なり神の人民イエスの爲に一となり聖靈によりて心を合せ其中に彼の現在を認めて大膽に「父、」彼等の爲に成給ふべしとの約束を應はせんとせば尚其恩惠一層大なるに至るべし

主よ祈ることを敎へたまへ

祭司の長として其民の一致を熱心に祈り今與へ給へし約束を以て一致を我儕に要めしことを敎へ給へし證べき主よ我儕の愛と望に一なるは爾の現在と父、の應答を信する時にあるなり

オー父、よ我儕は一にならん爲集るところの小き集合并に爾の民の爲に祈る私慾、利己、凡て一致を碍ぐるものを取除き給へ爾の約束の力を剝ぐ世と肉の靈を逐出し給へ爾の現在し給ふを考ふることと及び父、が恩惠によりて我儕を互に近くならしめ給へ

讃むべき哉主よ爾の敎會をして其天にて繫き且解き惡魔を逐出し靈魂を救へ山岳を動かし神の國を近かしむるは一致の祈禱の力によると信ずるを得せしめよ善き主よ我か祈る會合にて敎會の祈禱は爾の名と爾の言の榮らるゝ力たるを得せしめよアーメン

第十六課　耐忍ある祈禱の力

イエスまた人の恒に祈禱して沮喪すまじき爲に譬を彼等に語りけるは……主いひけるは不義なる裁判人の言しことを聽け況して神は晝夜祈る所の選たるものを久く忍ふとも終に救はさらんや我なんぢらに告ん神は速に彼等を救はん

路十八、一―八

祈禱界の秘義の中耐忍の祈禱の必要は最も解説に苦むものゝ一なり惠を與ふるを愛し之を望み給ふ神が答を與ふるまで長く時としては數年祈ることを要求たまふは我儕の容易く了解する能はさることなり又それは信仰の祈禱を爲に最も實際上困難を與ふるものゝ一にして耐へ忍んで祈れる後答未た來らされば我儕の弱き心は敬虔の形容を以て神の我儕の祈願に答へさるは我儕の知さる理由のあるべければ最早祈ることを止むべきなりと考ふるに至るなり

此困難に打ち勝は唯信仰によるのみなり信仰一度神の言とイエスの名の上に立ち祈禱の時神の旨と其榮譽を求むるため聖靈の導にのみ任さば久く答へらさるとも落膽すべきにあらさるなり信仰の祈禱の勢力は當るべからさるものなるを聖書より知る眞實の信仰は失望すべきものに非ず恰も水が其強き勢力を動かすべき爲十分の力を以て流るゝまで集らるゝが如く神が十分なりと認め給ふに至るまで祈るべきこと屢なり又農夫が一万の歩をなして收

穂の爲に一萬の種を下すが如く望む恩惠を得か爲に屢耐へ忍んで祈るべきなり唯一の信仰の祈禱と雖も天に於て結果あらさるはなく終りまで堪忍ものに定まりたる時に於て答ある爲貯へらる且つこれ人間の意見によりて左右せらるゝものに非らすして唯神の活る言にのみ關るものなり然れば

アブラハムも數年望むべくもあらぬ時になほ望みて信じ信仰と忍耐によりて約束を嗣り

我儕の祈禱に答直に來らさる時耐忍の祈禱を以て靜なる忍耐と喜ある信任に安すべきため我儕の主が語り給へし性質と行爲を顯す二個の言を了解せんと格別に試みさるへからすこれ不義なる裁判人に非すして我儕の神即ち父は晝夜祈るところの選みたるものを久く忍ひ又神は速に

彼等を救ひたまふとの言なり

神は速に彼等を救はんと主語り給へり恩惠は盡く備へられて神は唯求ふ所のものを與ふるを好み給ふのみならすこれを與へんと思へ慮ひ給ふ限なき愛は愛するものに己を顯し其意を滿さんとの望を以て熱つゝあるなり、神は全き必要の存ずるに非されば一瞬間と雖も遲くするを欲ひ給はず彼は必ず其全力を以て答を與へんと急き給ふべし若し此事眞實にして且つ神の力限あらずは何故屢祈禱に答給ふことの遲きや又何故苦難と困窮との中に神の選みたるもの屢夜晝叫ぶべきや「神は永く忍ひ給ふ」見よ農夫地の貴き產を得るを望みて前と後との雨を得るまで久く忍で之を待り」農夫は實に其收穫を望めとも十分に日光と雨

とを得るまで久く忍び小兒は屢〻半熟の菓實を取らんと欲すれとも農夫は時機の來るを待つ人間の靈性も亦萬有を支配する漸次發達の法則の下にありて神の定め給へし運命に達するには發達の路に居らさるへからす而して諸の時機は教會又は靈魂か恩惠を實に保ち得る信仰に充分熟する時を知り給ふ父の御手にあり世の父の其子を家の中にのみ止めんことを望めとも學校に遣し教育の時滿るまで耐へ忍ふか如く神は久く忍ひ給ふ御方にして又速に答たまふなり

此眞理を洞見するによりて信者は之に應する性質を發育するに至らん忍耐と信仰待望ことを急速ことは人の堅く堪ゆるの基にして我儕は信仰により神に求ふところの祈

禱か神の約束に適ふを知る信仰は約束の中に答を見出し之を喜び之を讃む然れども此く神の言を受け答あるを知る信仰と現に經驗せる如く約束を得る公潔圓滿成熟せる信仰との間に差あり神の恩惠を受るに足る程靈魂の神と一致するは耐へ忍びて信じて求ふ祈禱にあり我儕の周圍の物の中に萬有の中に神の政府の中に答の出る前に當りて我儕の祈禱によりて影響を受るものなきを保せんや然れば命令に從ひ「得べしと信ずる」信仰は神に其時を與へて必ず祈禱の聞るゝを知り又聞るべきを知る而して恩惠の至るまで靜に耐へ忍んで祈禱と感謝を絶しめさるなり我儕は始に大に異なる感を發せしも今見へさる神の答を現に受けたりとして喜ぶ信仰と其明に來るまで晝夜祈る忍

耐との結合せるを見る神の答を速に來らしむるものは唯神を待望むものゝ忍耐ある信仰なり

咎の遲延るより生する大なる危難は我儕の求ふ所に答ふるは神の旨に非すと考ふる誘惑なり若し我儕の祈禱神の言に從ひ聖靈の導の下にあらば此の如き恐怖を起すべからず神は時を求め給ふ若し我儕神と交り神の感化を受け日々信仰を證すの時間を神に捧げば終に神の榮光を見る

に至らんたとひ遲延あるも動さるゝ勿れ始は葉次に穗次に充分の穀實るは信仰發生の順序なり信して求むる祈願は最終の勝利を一歩近くし果實を結ぶ時を早からしむ神の子よ父に時を供へよ彼は永く忍び給ふ彼は恩惠を豊に與し十分にせんと欲するなり爾儕晝夜祈る時彼に時間を與

へよ唯「神は速に彼等を救はん」との言を覺へよ

耐へ忍んで祈ることは言べからさる恩惠を與ふるものなり信仰の祈禱の如く人の心を省察しむる者は他に非す信仰の祈禱は恩惠の下るを碍ぐる碍礙物父の旨に適はさるものを盡く取去り祈禱を敎へ給ふ主に一層密なる交際を爲しめよ靈と血に近つけ深く敎徒よ神の答へたまふ時を待べし彼は汝に關るものは完全からしめ給ふべし「久く忍ふ……速に答へんとは汝が祈禱の門に入るとき神の暗號なり爾儕己の爲又他人の爲に祈る時前に述べし如くあるべし肉躰上精神上の諸の働作は時間と勉强を要するなり自然は唯勉强なる思考ある働作は其秘密を告げ其財寶を與ふ我儕の解るところ少し

と雖も心靈上にも同くあるを見る我儕が天の土に播とする種勵まんとする勉強上ある世界に顯さんとする勢力は我儕の全生を要む我儕は祈禱の爲自己を供けさるべからす然れとも若し我儕弱らずんば時機に獲り取るべしとの大なる信仰を堅く握りて放つべからず

我儕がキリストの教會の爲に祈る時格別に此學課を學ふべし、教會は主今肉躰を以て在さゝる故恰も憐むべき寡婦の如し、我儕此教會の爲に聖靈の大なる御業をあらはし、彼の來るに備へ給はんことを求ふ時、祈禱は結果あり絶す祈らば必ず答至るべしとの堅き信仰を以て祈るべし、唯神の答へたまふ時を待て、而して晝夜叫ぶべし、「不義なる裁判人の言しことを聽け、況して晝夜祈る所の選びたる者を久く忍ぶとも終に救はさらんや、我なんぢらに告ん神は速に彼等を救はん」

主よ祈ることを教へたまへ

オー主我神よ、爾の道を知り且「神は速に彼等を救はん」と爾が愛子の教へたることを理解するやう我を教へよ、爾の慈愛と爾の子等を惠む時に爾の有ちたまふ快樂とにより求ふ所のものは必ず得べし、好き時機に答あるべしとの約束を以て我を導け、主よ、我儕は宇宙に時節あるを悟り、我儕の望む菓實の爲に耐忍を以て待つべきを知る、オー爾は必要なくんば一瞬間も延し給ふことなく又信仰は答を早くするものなりとの確信を我に與へよ

讃べき哉主よ、晝夜祈る所のもの爾が選たるものなりと言

ひ給へり、我儕が此事を解るやう敎へ給へ、爾は我儕が速に弱くなるを知たまふ、我儕の思に爾は絶へず祈ることを要めたまはさるが如く考ふ、おゝ主よ、祈禱の動作の空からさるを我に敎へよ、我知る此地上に於て一事を爲に失敗せる時屢之を再びして撓さることにより成功あるを願くは再三再四祈ることによりて求ふ所の者を受ることを我に顯はせ、おゝ我讃べき師よ、信仰の先導又之を完全する者よ、爾の恩惠によりて我か全き生涯を我を愛して己を捨てし神の子を信する生活たらしめよ、彼によりて祈禱受納られ、答を受るを得主イエスよ此信仰を以て我常に祈らん又弱ならさるべしアーメン

第十七課　神の存在と合ふ祈禱

父よ已に我に聽り我これを爾に謝す、我爾が恒に我に聽ことを知る　約十一、四一より四二

爾は我子なり、我今日爾を生めり、我に求めよ、我爾に與へん　詩二、七と八

新約聖書には信仰と智識の間に區別を置けり曰く「或は靈により智惠の言を賜はり或は同じ靈に由て智識の言を賜はり或は同じ靈に由て信仰を賜はり」とキリスト敎徒の中に於ても或人は智識少しと雖も信仰多くあるなり、其人は單純なる小兒の如き精神を以て眞理を受け多くの困難を知らざるなり、唯神言ひ給へりとの信仰によりて其他の理論に繫ることと實に少し、然れども唯思慮を以て神に事へ之を愛するのみならず全心を盡して之に服事し神の道と言

と業との聖き智恵及び其美麗を知るは神の旨なりこれ信者が神の恩恵の榮光に達し充分それを讃むるを得我儕の心が救贖の中にある智恵と智識の寶を理解し「あゝ神の智と識の富は深ひかな」と御座より上る讃美をなし得るを云ふなり

我儕祈禱の生活に於て此眞理に就き學ばざるべからず、祈禱と信仰は新しく今生れたる所のものも力を以て祈り得るほど單一のものなれば眞實のキリスト信徒は祈禱の敎旨の中に深奥なる問題のあるものを見るなり、何程祈禱の力は空しからざるや、若し空しからずば如何にして神は此の大なる力を祈禱に與へしや、如何にして祈禱の動作の神の定旨と一致し得べきや、如何にして神の王權と我儕の意思

と一致すべきや、神の自由と我儕と合ふべきやとの此等の問は信徒の考慮を要する適當なる題目なり、我儕熱心に敬しく此等の秘義を探究せば益〻神が祈禱に於て人間に此の如き力を與へ給ひしを驚きて御前に跪くに至るべし

祈禱に關る困難の一は神が他のものより獨立にして完全することより生じ來れるものなり、神は無限の存在者にして自らあり自ら定め其至智と至聖があらんとする凡てのものを定めしに非ずや、如何にして祈禱が彼を動し得るや祈禱の答あるを約束せしは我儕の弱きを顧しのみには非ざるや、神の他のものによりて動かざるものに非ざれば祈禱の力に就き語られし所のものは我儕の思想に起るものより他のものなるや、祈禱の恩恵はこれが我儕自己に及ぼ

す感化のみには非ざるや

此等の疑問に答へんと欲する時我儕は神自に於て三位一体の奥義に於て其答解を見る若し神は唯一位に在ましば我儕彼に近寄を得ず又彼を動すを得ざるなり、然れども神は三位なり、神の中父と子は聖靈によりて一致と交際を爲す永遠の愛子を生み子に彼と同じき位を與へ彼の共議者となして第二の地位に坐せしめ給ひし時祈禱の道開けて其勢力は神の心中に達するに至れり、地に於る時の如く天に於ても父と子との全き關係は與ふることを受ることにあり、若し其受ることと與ふることの如く意識より發せしものにして又自ら決定し給ひしものならば子は求めて得給ひしものなるべきなり、神の三位の交際に於て子の求む

ることとは神の生命の大なる動作なり、故に詩に「我今日爾を生めり我に求めよ我爾に與へん」と父は子に力と地位を與へたり子の求むることは單に形容又影にあらずして父と子の愛互に全くなりし生命の動作なり、父は獨り自謀を決し給はず常に子の求むる所と其受ることに從ひ決し給ふ然れば神の存在と生命との中に求むること既に存せり、地の祈禱は必竟其反射に過ぎず イエス曰く「我爾が常に我に聞くことを知る」と彼の地の上にて子たることゝ異ならざるが如く地の上にて彼の求めし祈禱は唯天に於て祈りたる祈禱の接續にして人たるイエス、キリストの祈禱は父の懷に在せし獨の御子の祈禱と地上の人間の祈禱との鎖なり祈禱は神の存在の中に起源を發せ

り、神の懐に於ては子の求むることゝ父の與ふることゝ――即ち祈禱によらで爲れしもの未だ曾てこれあらず

右に述しことはイエスによりて求むる人間の祈禱が神に聞るゝを得るとのことを幾分か解説するものなり、神の決議は何事によらず子の意見をも合むものなれば子の祈願を受ずして決し給へるものに非ざるなり、主イエスは初生子にして凡てのものゝ首又世續たるなり凡てのものゝ彼によりて彼の爲に造られ彼に於て存ず父の評議の時子は常に萬物の代議者たる權を有ち永遠に定まる決議に於て常に仲保者たる子の意見採用せられ又子によりて父の許に達する凡ての祈願も空しきに歸せられざるなり

若し父に勢を及ぼす子の力と自由は神の決定の變すべからざることゝ抵觸せざる想考起らば神は人の如きものに非ざることを忘るべからず神は過去未來等の時間に住たまふものに非ずして永遠に在す所の彼には時間の區別あらざるなり、永遠は常に現在にして過去も過去ならず未來も未來ならず、聖書に過去の決定未來云々等の説あるは唯人間の言を借るなり、實際神の評議の變ぜざることは己の欲することを爲んとする神の自由と完全する一致を爲り唯に神は子及び其民の祈禱を神の決定の中に入れ給ふのみならず神は子によりて上る祈禱に耳を傾けんと其心を開きて他のものの爲を得ざることをも爲んと祈禱により

て定め給ふ

神は永遠の存在者にして凡て我儕の思想に越れば神の王

權と人間の自由との一致は測るべからざる奥義なり、然れども祈禱の力は父と子との交際の中に芽ざし發したるものにして子によりて求むるときは神の御心に達することを以て我儕の力及び喜樂と爲べし、神の決定も人間の祈禱によりて動くものにして我儕の祈願は徒なるものに非ざるなり神は人たる御子によりて人間と新しき交際に入り聖靈を以て愛の潔き生命の中に人間に屬せる凡ての物を取り其の政治の下に於て人間の祈禱に處を與へ給へし活る愛なり

此の如き思想の明白なるによりて三位一躰の奥義は唯抽象的の妄想にあらず、人が神の交際に入る爲其祈禱が地上に於て神の法則の一部とならん爲にあり得べき活る表像なり、我儕は遥に「彼により一の靈により父に近づくを得たり」との光を稍掬するを得るなり

主よ祈ることを敎へたまへ

三位一躰の永遠より永遠に在す神よ、深く敬みて我儕の存在の聖き奥義の前に覆面を以て拜す、あゝ最と榮ある神よ其奥義を解せんとするは爾の御心に叶ふとも爾の榮光を思ふとき罪を犯さゞるやう恐怖を以て跪づくなり父、我れ爾が地にある子等の父、なりとの名を有ち給ふのみならず爾が生み給へる獨子と共に永遠より父、の名を有ち給ふを謝す爾が永遠より御子の言を聞き給ひし故父、をして我儕の祈禱を聞き給ふを謝す又我儕御子と爾との天に於ける榮光ある交際を永遠より彼の祈禱を聞き答へ給ひしこ

とを地上にて見るを得しを謝し奉る就中上にある彼の眞の人間の性質と下にある爾の聖靈の補助によりて人類が爾に祈るの道開け求ふ所のものを得るを感謝す

祈禱の道を開き給へる讃べき主よ、爾は我に答へあるを保證し給へり我儕爾に願ふ爾の民に祈ることを教へよ、わゝ我儕爾の如く父が恒に我儕に聽ことを知るは神の子たる證たらしめよ、アーメン

第十八課　人の運命と合へる祈禱　太廿二、二〇

之に言けるは此像と號は誰か神言給ひけるは我儕に像りて我儕の像に人を造れり　創一、廿六

「此像は誰か」、此問によりて我儕の主は敵の口を閉給へり我

儕此言によりて學ふ所甚多し人は己の有つ所の像により て其運命を定めらる神の像を有つものは神に屬し神に祈るは人の造られし目的の一双神より出しもの像の一部にして三一の神の愛の交際より出しものなり、我儕が祈禱と其力を考ふるに從つて愈此の如き貴き地位を有てる人間は誰にして如何なるものなりやとの問を發すべし、人類は罪によりて大に墮落したれば今の人を以て人間の眞價を知る能はず然れは人間の造られたる目的は何なりや又如何なる能力を與へられしやを知らんが爲人類創造の歴史を探究すべし

創造の時神の語り給ひし言は人の運命を定めたり神は人をして地にある萬物を治めしめんとなし給へり人は恰も

神の代理者の如く神に代りて萬物を治る權を與へられたるなり、何事によらず地上にて爲れんとすることは人に依りて爲るゝは神の旨にして地球の歴史は全く人の手にあり

此の如き運命に從ひ人は世に處すべきものなり、世の王者己の領地に大守を遣す時必ず其地の政治に關して王に諫奏すべきの權を大守に與へ王は威權を保たんが爲に時としては軍勢をも動かすをも許すは常なり、若し此大守の政治王の意に適はさる時は王之を呼返して他人を送るに過ぎず然れども大守王に信任せらるゝ間は其諫奏行はれざるを得ず人は神の代理者として萬物を治め己の意に從ひて凡ての事を爲べきなり、天は人の求によりて其祝福を地に

下し人の祈禱は天に在す王と其忠義なる僕即ち此世の主との間の交通を結ぶ驚異べきものにてありたり、實に此世の運命は人の願望意思祈禱の力に任せられたり

然れども人罪を犯し墮落せしに依りて天地の物盡く變じて萬物皆詛を受たりしが漸く救贖の道開けて恢復の力を見るを得たり、昔神アブラハムを召びて其裔より大なる帝王の出づるを約束し給はりし時アブラハム祈禱を以て其周圍の人々の運命を定むる力を受たり、我儕はアブラハムに於て祈禱は唯神の惠を受る手段のみならず人の運命とそれを握り給ふ神の旨とに影響を及ぼす貴き特權の動作なるを知れりアブラハムは一度も己の爲に祈らざるが如し然れども

ソドム、ロト、アビメレク、イシマエル等の爲に祈